

綿 貫・台 新 田 遺 跡

－分譲住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査－

2009

高崎市教育委員会

例 言

- ・本書は、分譲住宅建設に伴い事前調査された綿貫・台新田遺跡（高崎市遺跡番号431）の発掘調査報告書である。
- ・本遺跡は、群馬県高崎市綿貫町台新田飛地2240番地1に所在する。
- ・高崎市教育委員会では、まとまりのある包蔵地内での発掘調査された遺跡名については、町名あるいは大字と小字を連記することを原則としている。（例 上中居・辻葉師遺跡） 本遺跡の場合、字名が無く台新田町に囲まれた飛地であるため、綿貫町と台新田町の町名を連ねて、「綿貫・台新田遺跡」とした。
- ・本調査及び整理作業は高崎市教育委員会が、委託契約を締結した株式会社測研の協力を得て実施した。
- ・発掘調査の体制は下記のとおりである。

高崎市教育委員会	田口一郎、須田奈保子、角田真也
株式会社測研	高林真人
- ・発掘調査期間は平成20年12月8日～平成21年1月22日、整理作業期間は平成21年1月26日～6月30日である。
- ・本書の執筆は、第1章は田口、第2～第4章は高林が行い、編集は高林が行なった。
- ・出土した遺物及び各種原図は高崎市教育委員会が保管している。
- ・本遺跡の発掘調査および報告書刊行にあたって、下記の方々・機関から御指導・ご協力を賜った。ここに記して御礼申し上げます。（五十音順・敬称略）

佐々木清貴	田中浩江	日沖剛史	向出博之	山際哲章
-------	------	------	------	------

凡 例

- ・遺構番号は、原則として発掘調査時に付したものを使用している。
- ・遺構挿図中に使用した座標値は世界測地系によるものであり、方位記号は座標北を示している。
- ・各遺構平面図および本文中に記した座標値は、X座標・Y座標とともに下3桁を表記している。
- ・セクション・エレベーションの各図に付した数値（L=）は、海拔を表す。
- ・土層注記及び遺物の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局 財團法人日本色彩研究所監修 『新版標準土色帖（1998年版）』を使用した。
- ・遺構には次の略号を使用した。

S I = 積穴住居跡	S K = 土坑	S E = 井戸跡	S X = 性格不明遺構	P = ピット（小穴）
-------------	----------	-----------	--------------	-------------
- ・遺構の実測図は、遺構配置図を1/200、積穴住居跡を1/60、土坑・井戸跡・ピットの平・断面図を1/80、住居跡カマド・ピットの一部の平・断面図を1/30で掲載した。
- ・遺物の実測図は1/3を原則とし、大きさに応じて1/2、1/4、1/6で掲載した。なお、1/3以外の縮尺のみ遺物番号の脇に表示している。
- ・遺物写真は、白玉をほぼ1/2、石製紡錘車をほぼ3/4、大型の甕・壺をほぼ1/6、その他をほぼ1/4の縮尺になるように掲載した。
- ・出土した遺物の注記は、遺跡番号（431）・遺構名・出土層位などを記入した。
- ・本書で使用した地図は下記のとおりである。

◎国土地理院 地形図 「高崎」 1/25,000	◎高崎市都市計画基本図 1/2,500
--------------------------	---------------------
- ・遺物実測図に使用したトーンは以下のとおりである。



目 次

例言

凡例

目次

第1章 調査に至る経緯	1	第4章 検出された遺構と遺物	4
第2章 遺跡の位置と環境	1	第1節 遺構の分布と基本土層	4
第1節 遺跡の位置と周辺の地形	1	第2節 積穴住居跡	5
第2節 周辺の遺跡	1	第3節 その他の遺構	29
第3章 調査方法と調査の経過	3	第4節まとめ	37
第1節 調査方法	3		
第2節 調査経過	3		

挿図目次

第1図 周辺遺跡図（1/25,000）・調査区位置図 （1/2,500）	2	第16図 27号住居カマド跡平・断面図、26～28号住居 跡出土遺物	18
第2図 遺構配置図	4	第17図 29号住居跡平・断面図、出土遺物（1）	19
第3図 1号・2号住居跡平・断面図、2号住居跡出 土遺物	5	第18図 29号住居跡出土遺物（2）	20
第4図 3号住居跡平・断面図、出土遺物	6	第19図 9号・12～14号・32号・33号住居跡平・断面 図	21
第5図 4号住居跡平・断面図、出土遺物	7	第20図 9号・12～14号住居跡出土遺物	22
第6図 5号住居跡平・断面図、出土遺物	8	第21図 32号・33号住居跡出土遺物	23
第7図 6号・11号住居跡平・断面図、出土遺物	9	第22図 18～22号・25号・31号住居跡・22号住居カマ ド跡平・断面図	24
第8図 7号住居跡平・断面図、出土遺物	10	第23図 19号・21号・22号・25号住居跡出土遺物	26
第9図 8号・10号住居跡平・断面図、8号住居跡出 土遺物	11	第24図 調査区北部土坑・井戸跡・ピット平・断面図	30
第10図 10号住居跡出土遺物	12	第25図 調査区中央部土坑・ピット平・断面図	32
第11図 15号・17号住居跡平・断面図、出土遺物	13	第26図 調査区南部土坑・性格不明遺構・ピット平・ 断面図	33
第12図 16号住居跡平・断面図、出土遺物	14	第27図 1号・2号土坑出土遺物	34
第13図 23号住居跡・カマド跡平・断面図	15	第28図 3～5号・9号・11号・14～16号・18～20号 土坑出土遺物	35
第14図 24号・30号住居跡・30号住居カマド跡平・断 面図	16	第29図 21号・22号・30号土坑、1号井戸跡、ピット 1・4、遺構外出土遺物	36
第15図 24号・30号住居跡出土遺物、26号・28号住居 跡平・断面図	17		

遺構観察表

遺物観察表

写真図版

第1章 調査に至る経緯

平成20年9月、土地所有者（当時）小池康雄より高崎市教育委員会（以下市教委）に分譲住宅建設予定地の埋蔵文化財の状況について照会があった。市教委は、該当地が古墳へ中世に至る散布地として遺跡台帳・地図に登録された埋蔵文化財包蔵地であるため、工事と埋蔵文化財保護との調整が必要な旨を回答した。

同年9月16日付で、事業者より文化財保護法第93条の届出と試掘調査申込書が提出されたのを受けて、市教委は平成20年10月28日に工事予定地の試掘調査を実施し、西側で部分的な擾乱はあるものの古墳へ奈良時代の遺構を確認した。

試掘結果を受けて、埋蔵文化財保護について事業者と協議を行ったが、建設予定の変更は不可能ということなので、文化財保護法第93条の規定による回答で、道路建設予定地で、遺構の残る部分について記録保存の発掘調査が必要であると指示を出した。

発掘調査は、市教委の作成する調査仕様書に基づく指導・監理の下、株式会社測研に委託して実施することとなり、平成20年12月4日付で高崎市長・事業者・測研の三者協定を締結し、さらに協定に基づき平成20年12月4日付で事業者と測研の二者で発掘調査委託契約が締結された。

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 遺跡の位置と周辺の地形

綿貫・台新田遺跡は、高崎市綿貫町に所在する古墳時代から平安時代にかけての複合遺跡である。本遺跡の所在する高崎市綿貫町は群馬県南部に位置し、東側は佐波郡玉村町が、南側は藤岡市が接している。本遺跡は高崎市街地から東南東へ約5.7kmの地点に位置しており、本遺跡の南東約1kmの所に群馬の森公園があり、南西約750m付近で国道17号線とJR高崎線が並行して走っている。

本遺跡周辺の地形の特徴は河川が密集している。本遺跡の約1.3km南には烏川が東流し、その付近で鏑川が合流する。約1.3km東には烏川の支流である井野川が南流し、約90m東には井野川の支流である柏川が南流している。本遺跡の東側には井野川によって形成された河岸段丘があり、本遺跡は南を東流する烏川と井野川によって形成された河岸段丘とに挟まれた舌状の高崎台地上に立地している。

今回の発掘調査地点は高崎台地の東縁部に位置しており、調査地点から東へ約10mのところに高崎台地と井野川の河岸段丘との境界となる崖が見られる。高崎台地面と井野川の高位河岸段丘面との比高差は約8mを測る。現況の標高は78.4m前後であり、ほぼ平坦であるが、台地の先端部に向かう南側へわずかに傾斜している。

第2節 周辺の遺跡

綿貫・台新田遺跡は、高崎台地と井野川河岸段丘との境界に立地している。高崎台地・井野川河岸段丘はともに多数の遺跡が確認されている。本遺跡周辺の遺跡について概観する。

旧石器時代 本遺跡の南南東約1kmにある高崎台地上の岩鼻坂上北遺跡で、倒木痕の中から尖頭器が1点出土している。

縄文時代 本遺跡から北西約2.2kmにある柴崎村間遺跡からは、土坑から前期後半の諸磧b式期の遺物が出土している。東北東へ約1kmにある綿貫堀米前遺跡(1)、綿貫堀米前II遺跡(8)、不動山東遺跡(10)からは中期後半の加曾利E2～3式期の土器片と石器が出土している。

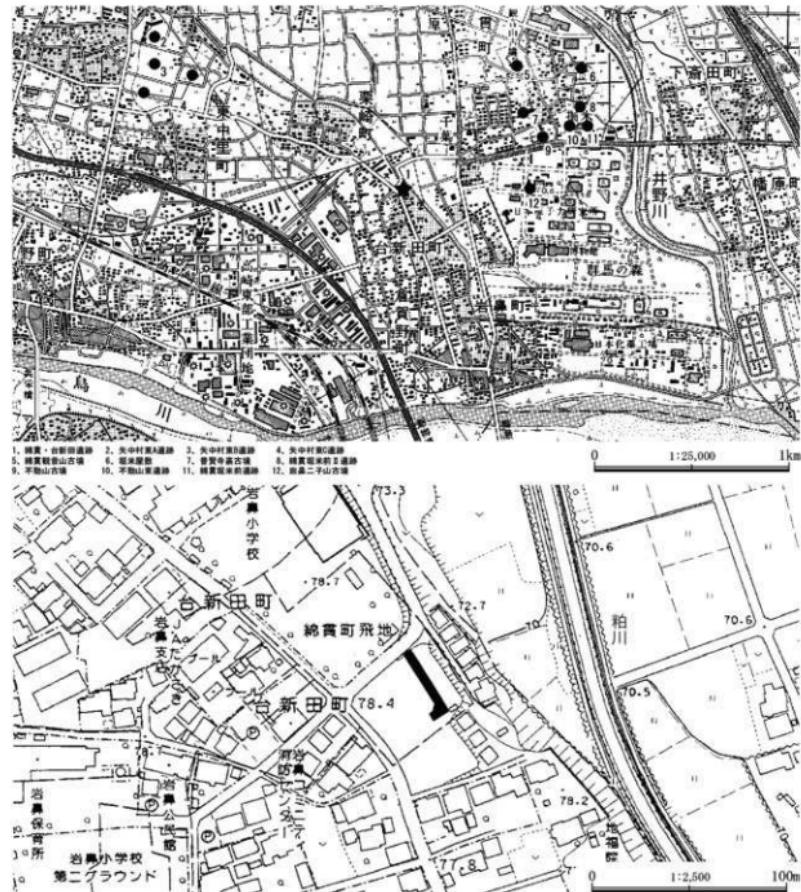
弥生時代 本遺跡周辺からは弥生時代の遺跡は確認されていないが、後期の樽式土器を伴う集落跡が井野川低地帯を上流に登った矢島町・元島名町で確認されている。

古墳時代 本遺跡から東北東へ約800mの井野川低地帯には古墳時代の遺跡が集中している。石田川式土器を持つ集落跡の綿貫堀米前遺跡、綿貫堀米前II遺跡、不動山東遺跡があり、井野川流域を治めた首長たちの墓である普賢寺裏古墳(7)、岩鼻二子山古墳(12)、不動山古墳(9)、綿貫觀音山古墳(5)がある。本遺跡の立地す

る高崎台地上では、矢中村東A遺跡（2）、矢中村東B遺跡（3）、矢中村東C遺跡（4）からは多数の方形周溝墓が検出されている。

奈良・平安時代 井野川低地帯の綿貫堀米前II遺跡、不動山東遺跡の集落は平安時代まで継続して見られる。高崎台地上では、矢中地区において現状の地割りで条里制が想定される。矢中村東A・B・C遺跡ではB軽石下水田跡、大型水路などの水利遺構が検出され、矢中村東A遺跡からは「物部私印」と陽刻された銅印が出土している。

中世以降 井野川低地帯・高崎台地ともに多くの城館が見られる。本遺跡の周辺では、井野川低地帯では堀米氏によって築かれたといわれる堀米屋敷（6）がある。高崎台地では矢中村東A・B・C遺跡を含む矢中遺跡群で居館跡や堀跡などが確認されている。



第1図 周辺遺跡図(1/25,000)・調査区位置図(1/2,500)

第3章 調査方法と調査の経過

第1節 調査方法

綿貫・台新田遺跡の発掘調査は、分譲住宅建設に伴い現状が変更される道路部分において、工事を行う前に実施した記録保存調査である。したがって、調査区域は幅約4m、長さ約38mのほぼ長方形で、南端部は曲がり角の為幅を持たせた道路形状に沿うものとなっている。発掘調査面積は約200m²である。

発掘調査を行うに当たって、調査区域の幅が狭く、方向も真北に対して約35°西へ傾いていたためグリッドの設定は行なわなかった。

遺構の検出は、試掘調査の成果を基に平安時代の遺構検出面であるLIV上面（第4章基本土層参照）まで重機を使用して掘削を行い、遺構確認作業は人力で行った。その際出土した遺物は、遺構検出面として一括で取り上げた。調査区北部及び南部は、遺構の重複が見られるもののローム層（漸移層含む）が検出されたため遺構の平面形を捉えることが可能であった。調査区中央部は遺構の重複が著しいためローム層は検出されず、ほぼ全域が遺構内堆積土の暗褐色土であった。調査範囲の幅が狭い事もあって、この段階で遺構の平面形を捉えることは困難であった。

遺構の掘り込みは、調査区北部及び南部では検出された各遺構の形態・大きさを考慮して適宜土層観察用のベルトを残し、土の堆積状況や遺物の出土状況に留意しながら行った。調査区中央部では遺構の平面形を把握することが困難であったため、調査区の長軸方向に2本、短軸方向に7本の土層観察ベルトを格子状に設け、任意のグリッドを設定した。グリッドごとに平面的に少しづつ掘り下げを行い、土層断面で確認しながら床面の状況を判断し、住居跡を確認していく。

遺構の記録は、遺構実測図作成及び写真撮影を実施している。遺構実測図は、光波測距儀を用いて全体図を1/100、堅穴住居跡カマドの平面図・断面図およびピットの遺物出土状況図を1/10、その他の遺構平面図・土層断面図を1/20の縮尺で図化した。写真撮影は、35mm小型一眼レフカメラとデジタル一眼レフカメラを併用して行った。35mmカメラは、モノクローム・カラー・リバーサルフィルムを使用し、両者同一カットを3枚1単位で撮影を行った。デジタルカメラは35mmカメラの1単位につき1枚撮影をした。

遺物の取り上げは、遺構に伴うと判断したもの及び遺存状況の良いものは平面図作成または座標値を残して取り上げた。それ以外の遺物は出土層位に留意して層位ごとに取り上げた。調査区中央部の遺物は、遺構が確定されるまではグリッドごとに取り上げ、遺構が確定した後は遺構ごとに取り上げた。

第2節 調査の経過

調査日誌抄

平成20年12月5日	調査区設定、発掘調査道具運搬	平成20年12月22日	調査区中央部の遺構精査開始
平成20年12月8日	表土掘削開始	平成20年12月25日	高崎市教育委員会神澤氏・折原氏来跡
平成20年12月9日	作業員雇用開始、調査区壁にサブトレンチ掘削	平成20年12月26日	調査一時中断
平成20年12月10日	高崎市教育委員会田口氏来跡調査 状況確認	平成21年1月5日	調査再開
平成20年12月11日	高崎市教育委員会角田氏来跡調査 状況確認	平成21年1月20日	空中写真撮影実施、高崎市教育委員会田口氏来跡し調査終了確認
平成20年12月15日	調査区北部から遺構精査開始	平成21年1月21日	掘形調査、発掘調査道具片付け
平成20年12月18日	調査区南部の遺構精査開始	平成21年1月22日	調査区埋め戻し

第4章 検出された遺構と遺物

第1節 遺構の分布と基本土層

遺構分布 締貫・台新田遺跡は高崎台地の東縁部に位置している。台地上はほぼ平坦であること、東側に井野川低地帯を臨む環境であることから、人々が生活するのに適した土地であったと考えられる。今回の調査区では古墳時代中期から奈良・平安時代にわたる時期の堅穴住居跡が33軒確認され、堅穴住居跡と同じ時間範囲内と思われる土坑が36基、井戸跡1基、ピット22個が確認された。遺構検出面において関東ローム層が確認されたのは調査区北部と南部の一部だけというほどの遺構密度であった。

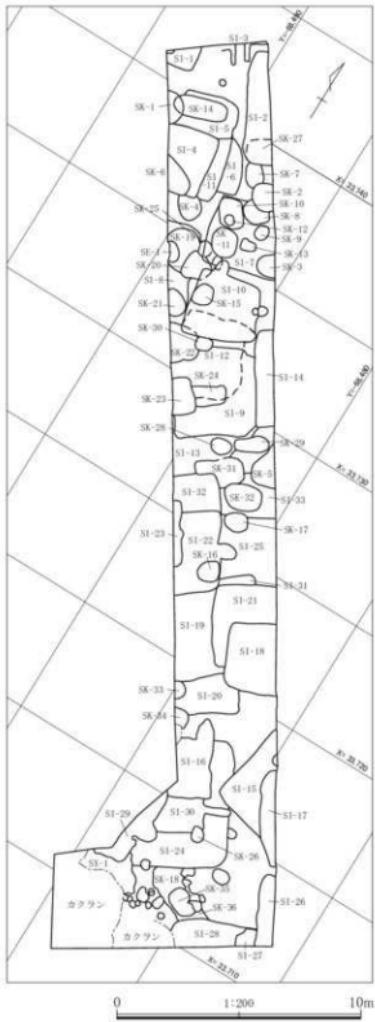
堅穴住居跡は調査区の全域で確認された。時期別の分布状況を見ると、古墳時代の堅穴住居跡は調査区の北部と南部に、奈良・平安時代の堅穴住居跡は調査区中央部にやや多く見られるが、特に偏った傾向は見られない。

土坑・井戸跡は調査区北部から中央部にかけて環状に分布している。ピットは調査区北部・中央部が少なく、調査区南部に多く見られる。

基本土層

今回の調査区は遺構密度が非常に濃く、調査区壁において基本土層を明瞭に確認できる部分が見られなかつたため、基本土層の柱状図は作成していない。各遺構の調査区壁面を使用した土層断面図で対応した。基本土層の土層注記は以下の通りである。

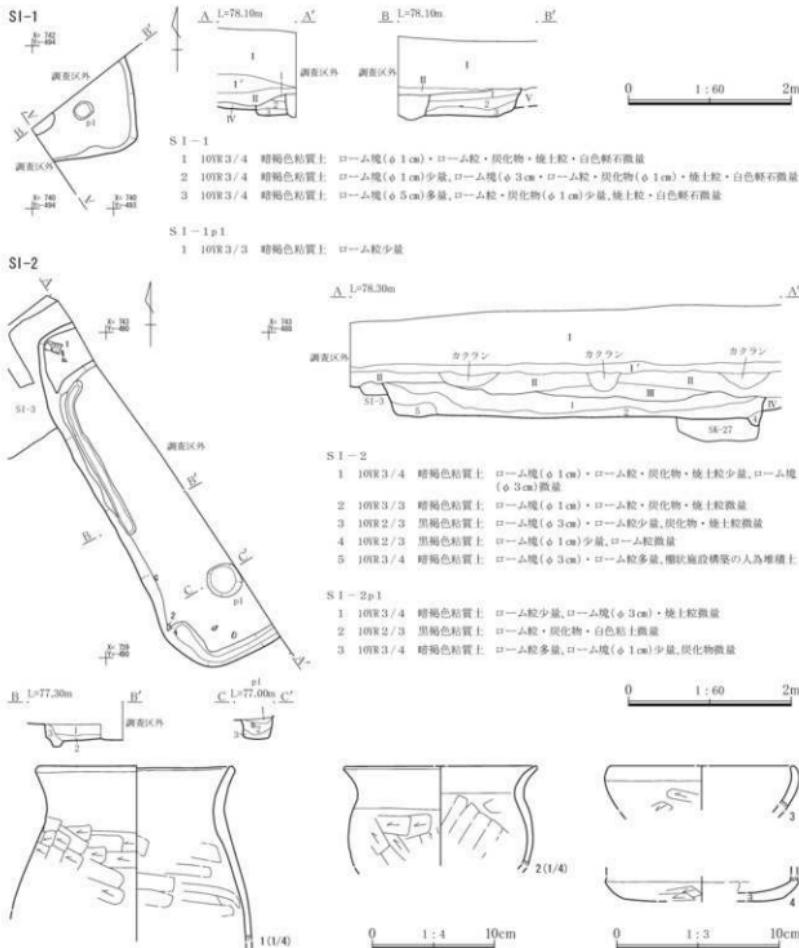
I	盛土整地土（コンクリ片・碎石多量含む）
I'	盛土整地土（A s - A混土）
II	10YR 3 / 4 暗褐色土 A s - A少量含む
III	10YR 3 / 3 暗褐色土
III'	10YR 3 / 3 暗褐色土 焼土塊 (ϕ 5 cm) 多量含む
III'a	10YR 3 / 3 暗褐色土
III'a'	10YR 3 / 3 暗褐色土 10YR 4 / 3 にぶい黄 褐色火山灰がレン ズ状に堆積
III'b	10YR 3 / 4 暗褐色土 白色蛭石多量含む
III'c	10YR 3 / 4 暗褐色土 遺物多量含む
IV	10YR 3 / 2 黒褐色粘質土 漸位層・遺構検出面
IV'	10YR 3 / 3 暗褐色粘質土 漸位層・遺構検出面
V	10YR 6 / 6 明黄褐色土 関東ローム層

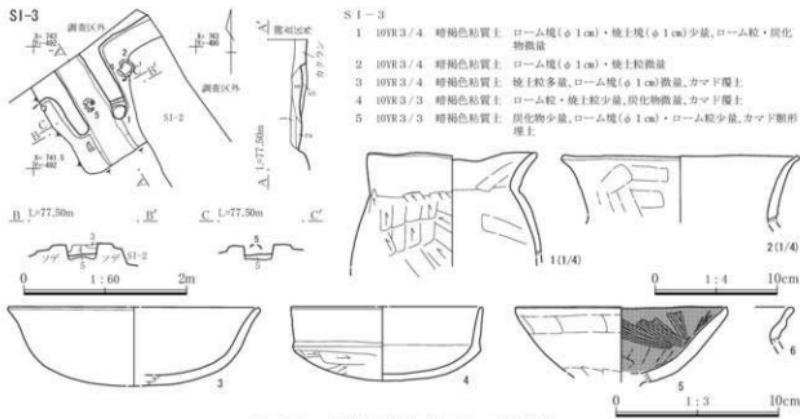


第2図 遺構配置図

第2節 堅穴住居跡

今回の調査区域では、33軒の堅穴住居跡が非常に狭い範囲に密集して検出されている。調査の進捗に応じて遺構番号を振つていったため順序良く並んでいない。今回の報告では、重複する遺構の少ない調査区北部・南部の堅穴住居跡は遺構平・断面図を個別に示し、遺構番号の若い順から記載している。堅穴住居跡の密集している調査区中央部は、重複状況が分かるように遺構平・断面図をまとめて示し、その範囲内で遺構番号の若い順から記載している。





第4図 3号穴住居跡平・断面図、出土遺物

1号豊穴住居跡 (第3図)

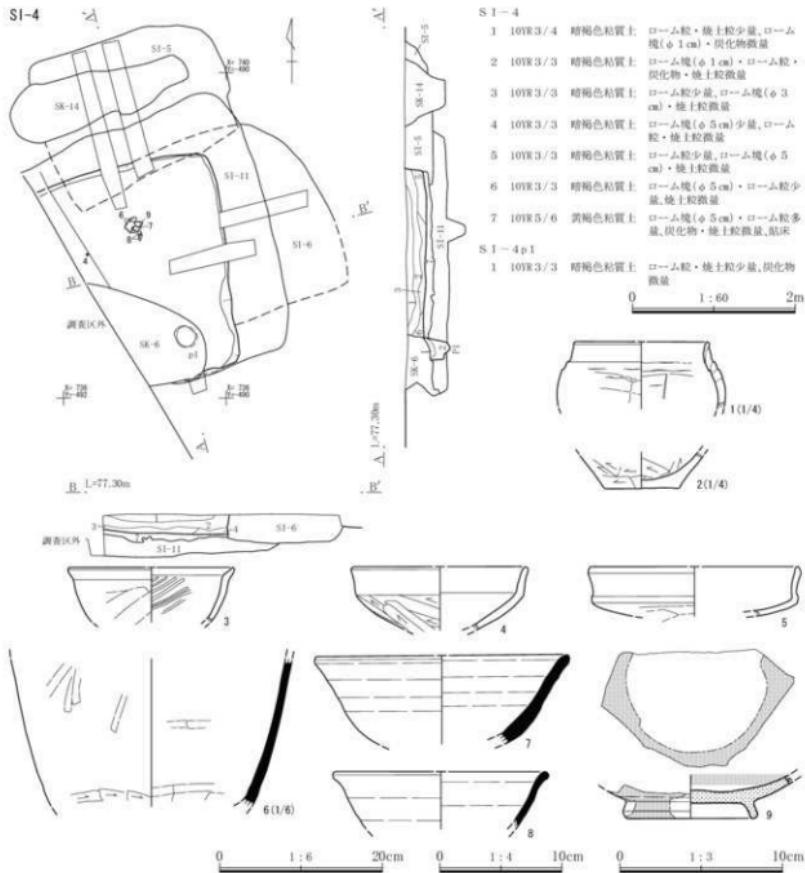
位置 調査区北端部 ($X = 740 \sim 742$, $Y = 492 \sim 494$) **検出状況** 表土除去後平面形を確認。南東隅部のみを検出し、その他は調査区外にある。**重複** なし。**規模** 平面は隅丸方形を呈すると思われる。床面幅で [1.20] m × [1.05] m 確認された。壁高は 25 cm 残存する。**東・西壁方位** 東壁 N 5° W 床面・掘形 床面は概ね平坦である。貼床は認められない。**カマド** 検出されていない。**住居内施設** ピット 1 個確認。直径約 20 cm、深さ 6 cm。位置的に柱穴である可能性が高い。**出土遺物** 図示し得るものは出土していない。**所見** 南東隅部のみ確認された遺構であるが、形態の特徴から豊穴住居と判断した。時期を判別しうる遺物が出土していないため、所属時期は不明である。

2号豊穴住居跡 (第3図・写真図版 3)

位置 調査区北端部 ($X = 739 \sim 743$, $Y = 487 \sim 491$) **検出状況** 表土除去後平面形を確認。西壁側約 1 / 5 のみ検出し、その他は調査区外にある。**重複** 3号穴住居跡・27号土坑より新しい。**規模** 平面は隅丸方形を呈すると思われる。床面幅で 3.82 m × [0.88] m 確認された。壁高は 40 cm 残存する。**東・西壁方位** 西壁 N 27° W 床面・掘形 床面は概ね平坦である。貼床は認められない。**カマド** 検出されていない。**住居内施設** 北西隅部に棚状施設と思われる段差を確認。奥行約 50 cm、ピット 1 個確認。直径約 40 cm、深さ 20 cm。位置的に柱穴の可能性が高い。北西隅部から西壁中央・南西隅部で周溝が確認された。**出土遺物** 棚状施設の底面から土器壺 (1)、覆土中から土器小型壺 (2)・坏 (3・4) が出土している。**所見** 西壁側がわずかに確認された豊穴住居跡で、北西隅部に棚状の段差が見られる。所属時期は、出土遺物から 5 世紀～6 世紀代と考えられる。

3号豊穴住居跡 (第4図・写真図版 2・3)

位置 調査区北端部 ($X = 741 \sim 744$, $Y = 490 \sim 492$) **検出状況** 表土除去後平面形を確認。西・南側は表土掘削の際掘り過ぎている。**重複** 2号穴住居より古い。**規模** 平面は不明である。床面幅で [1.74] m × [1.25] m 確認された。壁高は 11 cm 残存する。**カマド主軸方位** N 32° W 床面・掘形 カマド近辺しか残存していないが床面は概ね平坦である。貼床は認められない。**カマド** 住居跡北壁で確認。転用支脚と思われる高壙あり。**住居内施設** 確認されていない。**出土遺物** カマド袖の芯材である土器壺 (1)、カマドの東側の床面から土器壺 (2)、カマド内から転用支脚と思われる土器高壙 (5)、覆土中から土器壺 (8・9)、S 字壙 (10) が出土している。**所見** カマド近辺のみが確認された豊穴住居跡である。所属時期は、カマド芯

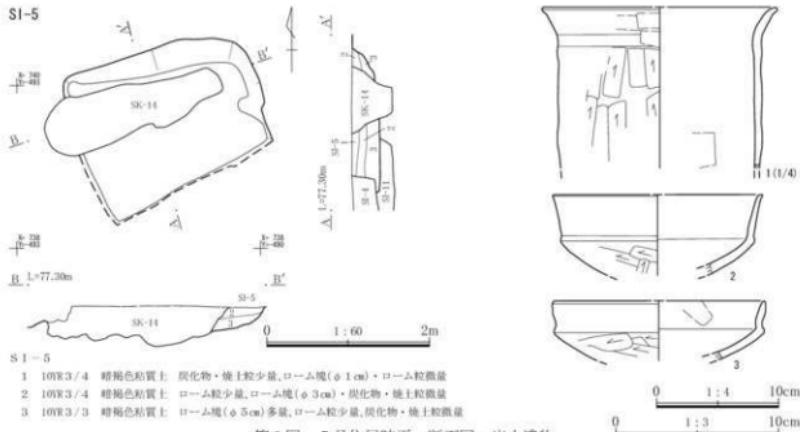


第5図 4号住居跡平・断面図、出土物

材および転用支脚と思われる遺物から5世紀～6世紀代と考えられる。

4号整穴住居跡 (第5図・写真図版3)

位置 調査区北部 ($X = 736 \sim 739$, $Y = 490 \sim 492$) 検出状況 表土除去後平面形を確認。北・東・南壁の一部を検出し、その他は調査区外にある。重複 5・6・11号住居跡より新しく、6号土坑より古い。規模 平面は隅丸方形を呈すると思われる。床面幅で $2.69\text{ m} \times [2.10]\text{ m}$ 確認された。壁高は 22 cm 存在する。東・西壁方位 東壁 $N 8^\circ W$ 床面・掘形 床面は概ね平坦である。全面にわたり黄褐色粘質土の貼床が検出された。カマド 確認されていない。住居内施設 南東隅部にピット1個確認。直径約 25 cm 、深さ 20 cm 。位置的に柱穴である可能性が高い。出土遺物 床面から土師器小型甕(1)、覆土中から土師器甕(2)・坏(3～5)、須恵器壺(6)・坏(7・8)、灰釉陶器(9)が出土している。所見 南西隅部を除く全体の約 $2/3$ が確認



第6図 5号住居跡平・断面図、出土遺物

された堅穴住居跡である。所属時期は、覆土中に灰釉陶器片があることから9世紀以降と考えられる。

5号堅穴住居跡（第6図）

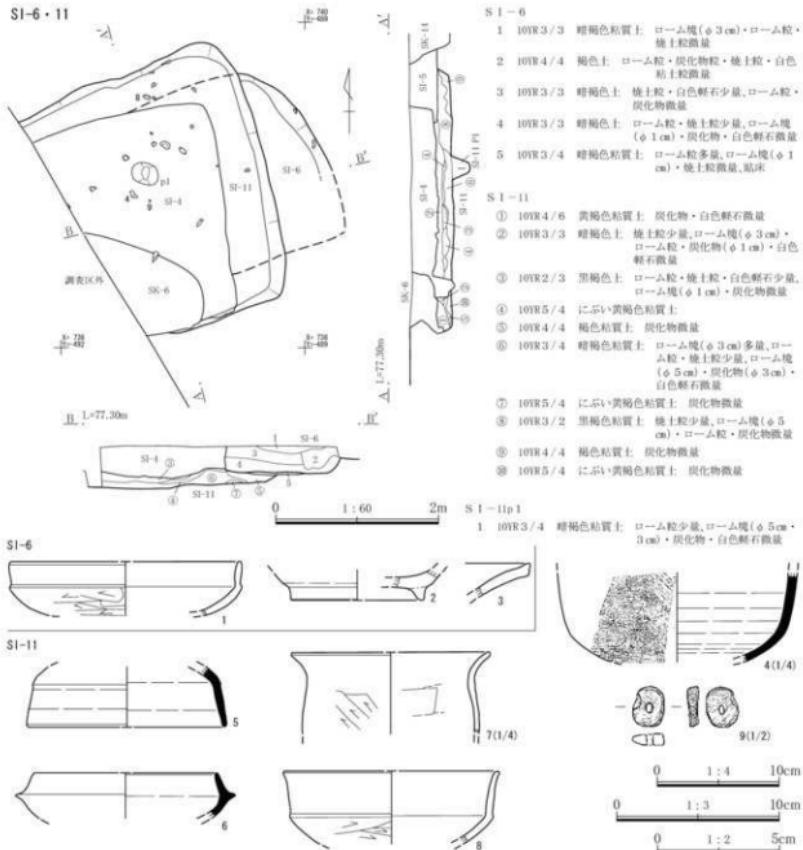
位置 調査区北部（X = 738 ~ 741, Y = 490 ~ 493）
検出状況 表土除去後平面形を確認。南壁は4号住居跡の下面から確認。**重複** 6・11号住居跡より新しく、4号住居跡、14号土坑より古い。**規模** 平面は隅丸方形を呈すると思われる。床面幅で2.13m × 1.74m確認された。壁高は26cm残存する。**東・西壁方位** 東壁 N 19° W 床面・掘形 床面は概ね平坦である。貼床は認められない。**カマド** 確認されていない。**住居内施設** 確認されていない。**出土遺物** 覆土中から土師器甕（1）・坏（2・3）が出土している。
所見 南壁は4号住居跡に切られているが、全体が確認されている。住居内施設が確認されていないが、形態の特徴から堅穴住居跡と考えられる。所属時期は、出土遺物から7世紀以降と考えられる。

6号堅穴住居跡（第7図）

位置 調査区北部（X = 737 ~ 740, Y = 488 ~ 493）
検出状況 表土除去後平面形を確認。東壁の半分のみ検出された。その他は調査区外にある。**重複** 11号住居跡より新しく、4・5号住居跡より古い。**規模** 平面は不正形であるが隅丸方形を呈すると思われる。床面幅で[2.13]m × [1.24]m確認された。壁高は17cm残存する。**東・西壁方位** 東壁 N 27° W 床面・掘形 床面は概ね平坦である。ローム粒を多量に含む暗褐色粘土質の貼床がわずかに確認された。**カマド** 確認されていない。**住居内施設** 確認されていない。**出土遺物** 覆土中から土師器坏（1）、酸化焰焼成須恵器高台付坏（2）・壺（3）が出土している。**所見** 東側がわずかに確認された遺構である。住居内施設が確認されていないが、形態の特徴から堅穴住居跡と考えられる。所属時期は、出土遺物から6世紀後半以降と考えられる。

11号堅穴住居跡（第7図・写真図版4）

位置 調査区北部（X = 737 ~ 740, Y = 488 ~ 493）
検出状況 表土除去後平面形を確認。北・東壁、南壁の半分が検出された。その他は調査区外にある。**重複** 4～6号住居跡、6号土坑より古い。**規模** 平面は隅丸方形を呈すると思われる。床面幅で3.05m × [2.59]m確認された。壁高は12cm残存する。**東・西壁方位** 東壁 N 15° W 床面・掘形 床面は概ね平坦であるが、西半分が若干低い。貼床は確認されていない。**カマド** 確認されていない。**住居内施設** ほぼ中央部にピット1個確認。直径約30cm、深さ21cmである。**出土遺物** 覆土中から土師器甕（7）・坏（8）、須恵器壺（4）・坏蓋（5）・坏（6）、床面から白玉（9）が出土している。**所見** 北・東壁、南壁半分が確認された遺構である。住居内施設はピット1個のみであるが、



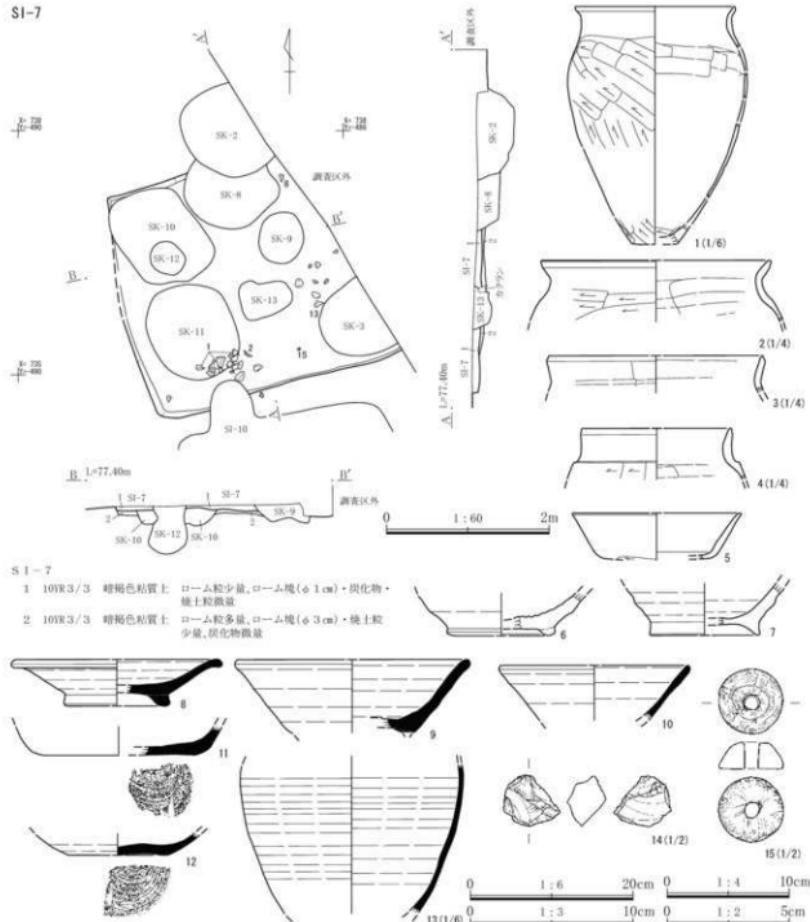
第7図 6号-11号住居跡平・断面図、出土遺物

形態の特徴から竪穴住居跡と考えられる。所属時期は、出土遺物から5～6世紀代と考えられる。

7号竪穴住居跡（第8図・写真図版3・4）

位置 調査区北部（X = 734～738, Y = 485～489） 検出状況 表土除去後平面形を確認。北壁半分・西・南壁が検出された。その他は調査区外にある。**重複** 10・11号土坑よりも新しく、10号住居跡、2・3・8・9・12・13号土坑より古い。**規模** 平面は東西方向に長い長方形を呈すると思われる。床面幅で2.72m×[3.01]m確認された。壁高は10cm残存する。**東・西壁方位** 西壁 N 13° W 床面・撮影 床面は概ね平坦であるが、中央部が若干低い。ローム粒を多量に含む暗褐色粘質土の貼床が確認された。**カマド** 確認されていない。

住居内施設 床下土坑と思われる土坑2基（SK 10・11）を確認。**出土遺物** 覆土中から土器師壺（1～4）・壺（5）・須恵器壺（13）・壺（11・12）・高台付壺（9・10）・高台付皿（8）・酸化焰焼須恵器高台付壺（6・7）・石製紡錘車（15）・剥片（14）が出土している。**所見** 北壁半分・西・南壁が確認された遺構である。形



第8図 7号住居跡平・断面図、出土遺物

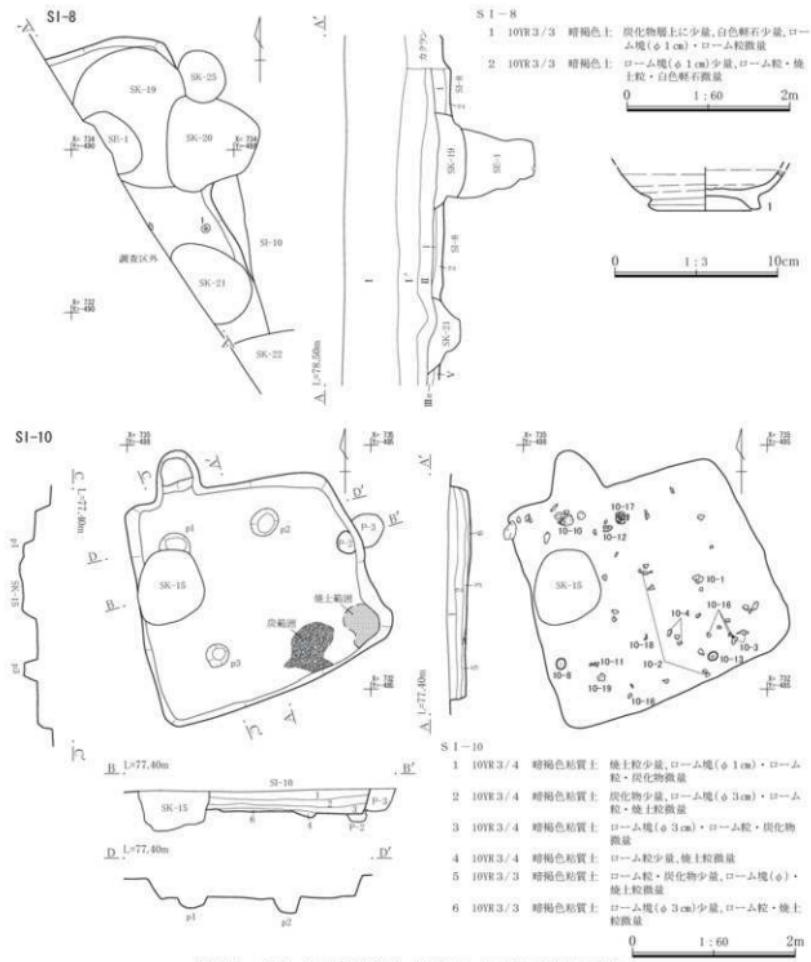
態の特徴から竪穴住居跡と考えられる。所属時期は、出土遺物から8世紀後半以降と考えられる。

8号竪穴住居跡 (第9図・写真図版3)

位置 調査区北部 ($X = 731 \sim 736$, $Y = 487 \sim 491$) **検出状況** 表土除去後平面形を確認。北・東壁の一部が検出された。その他は調査区外にある。**重複** 10号住居跡、19～22・25号土坑、1号井戸跡よりも古い。

規模 平面は隅丸方形を呈すると思われる。床面幅で [4.03] m \times [1.30] m 確認された。壁高は24cm残存する。

東・西壁方位 東壁 $N 20^{\circ} W$ **床面・掘形** 床面は概ね平坦であるが、中央部が若干高い。貼床は確認されていない。**カマド** 確認されていない。**住居内施設** 確認されていない。**出土遺物** 床面から酸化焰焼

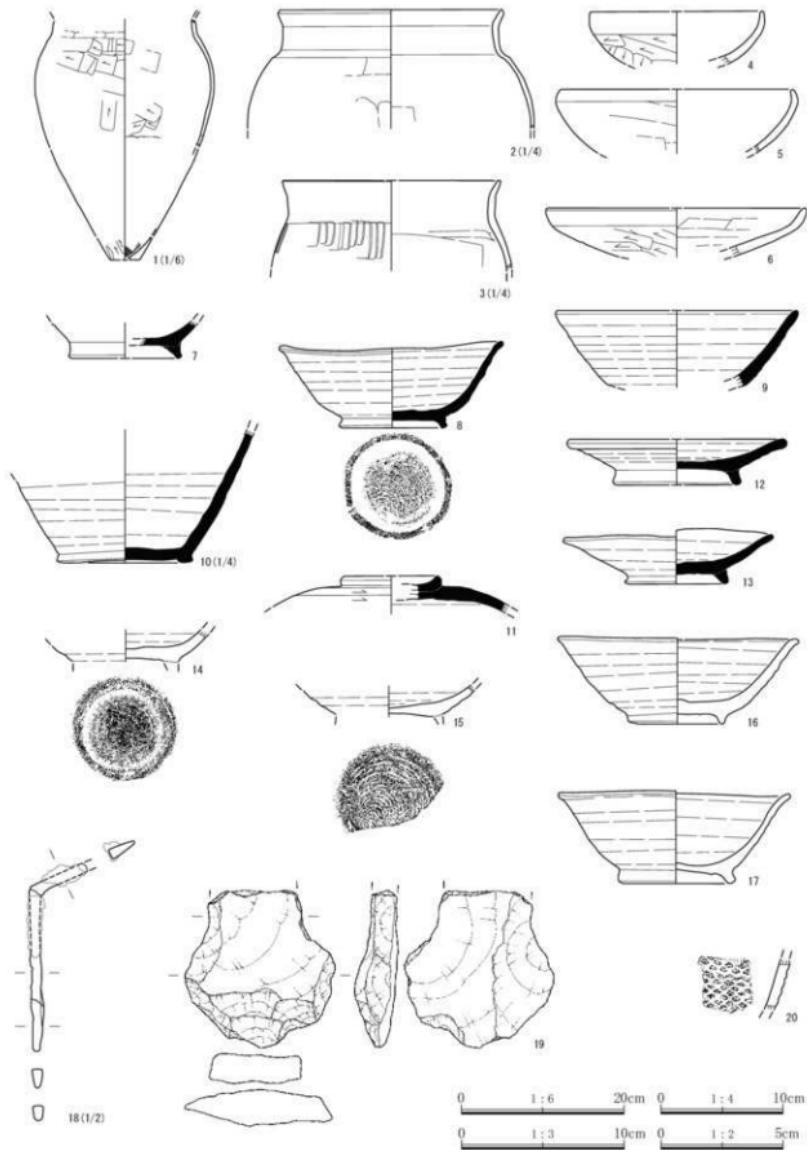


第9図 8号・10号住居跡平・断面図、8号住居跡出土遺物

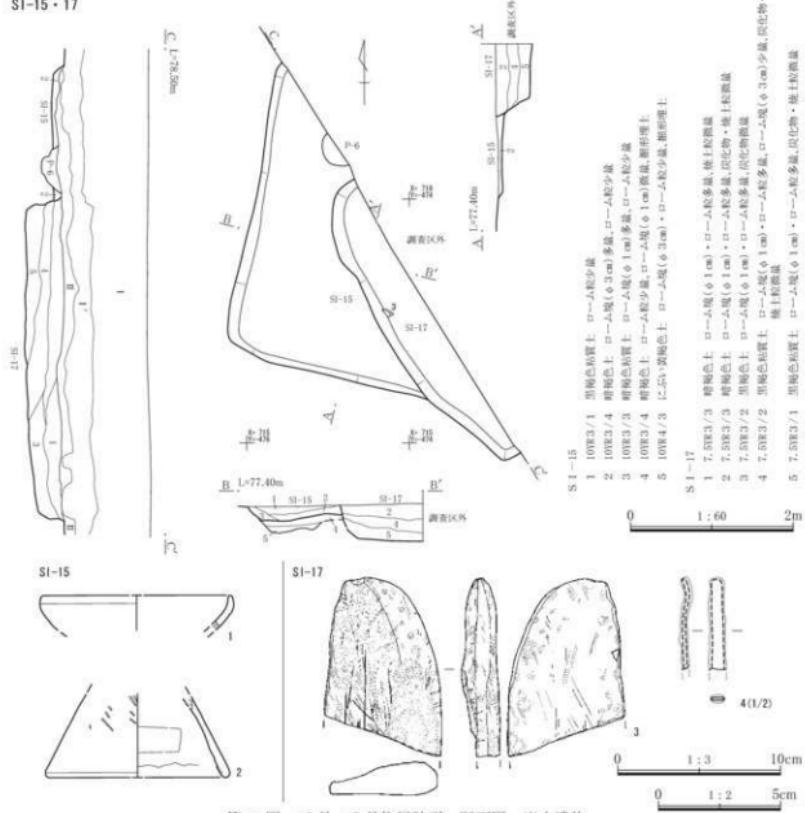
須恵器高台付壺（1）が出土している。所見 北・東壁の一部が確認された遺構である。形態の特徴から竪穴住居跡と考えられる。所属時期は、出土遺物から8世紀代と考えられる。

10号竪穴住居跡（第9・10図・写真図版2～4）

位置 調査区北部 ($X = 731 \sim 735$, $Y = 484 \sim 488$) **検出状況** 表土除去後前面形を確認。重複 9・12号住居跡、ピット2・3より新しく、15号土坑より古い。**規模** 平面は南西隅部がやや突出した隅丸方形を呈する。床面幅で $2.82 \text{ m} \times 2.61 \text{ m}$ 確認された。壁高は 31 cm 残存する。**東・西壁方位** 西壁 $N 11^\circ W$ 床



第10図 10号住跡出土遺物



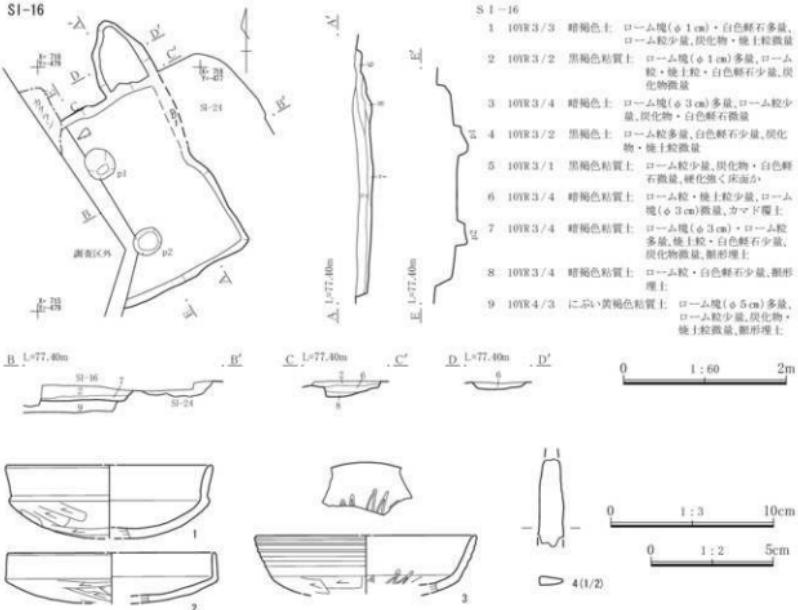
第11図 15号・17号住居跡平・断面図、出土遺物

面・掘形 床面は概ね平坦である。貼床は確認されていない。 **カマド** 北壁の西寄り部分で煙道と思われる張り出し部が認されたが、カマドの痕跡は認められない。 **住居内施設** ピット3個確認。南東隅のみ確認されていない。南東隅部の床面から焼土と炭化物が多く検出された。南東隅部がわずかに突出していることから古い12号住居跡のカマド痕跡と考えられる。 **出土遺物** 床面から土器器壺(10図1)、須恵器壺(10図10)、高台付壺(10図8)、高台付皿(10図13)、酸化焰焼成須恵器高台付壺(10図16・17)、覆土中から土器器壺(10図2・3)・壺(10図4～6)、須恵器高台付壺(10図7)・高台付皿(10図12)・壺蓋(10図11)、酸化焰焼成須恵器高台付壺(10図14・15)、刀子(10図18)、縄文土器片(10図20)、打製石斧(10図19)が出土している。

所見 北壁の西寄りにカマドを持っていたと考えられる堅穴住居跡である。所属時期は、出土遺物から9世紀以降と考えられる。

15号堅穴住居跡 (第11図)

位置 調査区南部 ($X = 715 \sim 720$, $Y = 473 \sim 477$) **検出状況** 表土除去後平面形を確認。西壁と南壁の一



第12図 16号住居跡平・断面図、出土遺物

部が検出された。その他は調査区外にある。**重複** 24号住居跡より新しく、17号住居跡、ピット6より古い。

規模 平面は隅丸方形を呈すると思われる。床面幅で[3.45] m × [2.35] m確認された。壁高は18 cm残存する。

東・西壁方位 西壁 N 11° E 床面・掘形 床面は概ね平坦であるが、西壁側が若干低い。西壁側に溝状の掘形が確認された。**カマド** 確認されていない。**住居内施設** 確認されていない。**出土遺物** 覆土中から土師器壺(1)・台付甕(2)が出土している。**所見** 住居内施設が確認されていないが、形態の特徴から竪穴住跡と考えられる。所属時期は、出土遺物から6～7世紀代と考えられる。

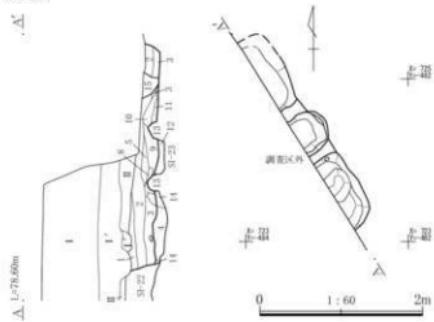
17号竪穴住跡 (第11図・写真図版4)

位置 調査区南部 (X = 714 ~ 719, Y = 472 ~ 477) **検出状況** 表土除去後平面形を確認。西壁のみ検出された。その他は調査区外にある。**重複** 15号住居跡よりも新しい。**規模** 平面は隅丸方形を呈すると思われる。床面幅で3.73 m × [0.52] m確認された。壁高は42 cm残存する。**東・西壁方位** 西壁 N 32° W 床面・掘形 床面は概ね平坦であるが、中央部が若干低くなっている。貼床は確認されていない。**カマド** 確認されていない。**住居内施設** 確認されていない。**出土遺物** 図示し得る土器は出土していない。覆土中から鉄製品(4)、砥石(3)が出土している。**所見** 住居内施設が確認されていないが、形態の特徴から竪穴住跡と考えられる。所属時期は、時期を推測可能な遺物が出土していないが、遺構の切り合い関係から7世紀以降と考えられる。

16号竪穴住跡 (第12図・写真図版3)

位置 調査区南部 (X = 715 ~ 719, Y = 476 ~ 479) **検出状況** 表土除去後平面形を確認。東・北壁、南壁の半分が検出された。その他は調査区外にある。**重複** 24・30号住居跡よりも新しい。**規模** 平面は隅丸

SI-23



SI-23カマド



SI-23

- | | |
|---|---|
| 1 10W3/4 暗褐色土 ローム粒・施土粒・白色軽石少量 | 9 7.5W4/3 暗褐色粘質土 ローム塊(Φ 1cm)・ローム粒多量、施土粒多量、白色軽石少量、炭化物・灰微量 |
| 2 10W3/3 暗褐色土 ローム塊(Φ 1cm)・ローム粒・施土粒(Φ 1cm)・白色軽石少量、炭化物微量 | 10 10W7/8 黄褐色粘質土 ローム塊(Φ 3cm)大粒、施土粒微量、カマド崩落土 |
| 3 10W3/3 暗褐色土 ローム塊(Φ 1cm)多量、ローム粒少量、炭化物・施土粒・白色軽石微量 | 11 10W3/3 暗褐色粘質土 ローム塊(Φ 1cm)多量、ローム粒・施土粒少量、白色軽石微量、カマド崩落土 |
| 4 10W3/2 黒褐色土 ローム塊(Φ 1cm)大量、ローム粒多量、炭化物・施土粒・白色軽石微量、貯藏穴覆土 | 12 10W2/1 黒色粘質土 ローム塊(Φ 1cm)・ローム粒多量、施土粒・炭化物・白色軽石微量 |
| 5 7.5W3/3 暗褐色粘質土 ローム塊(Φ 1cm)・ローム粒・施土粒多量、炭化物・白色軽石微量 | 13 10W6/8 明黄褐色粘質土 カマド袖 |
| 6 7.5W3/3 暗褐色粘質土 ローム粒少量 | 14 10W3/3 暗褐色粘質土 ローム塊(Φ 3cm)大粒、ローム粒多量、施土粒・白色軽石微量、層上面わずかに炭化・艶形埋土 |
| 7 10W3/3 暗褐色粘質土 ローム塊(Φ 1cm)・ローム粒多量、施土粒・灰微量、カマド崩落土 | 15 10W3/4 暗褐色粘質土 ローム塊(Φ 1cm)少量、ローム粒・施土粒・白色軽石微量、別ビット覆土 |
| 8 10W3/2 黑褐色粘質土 ローム粒・施土粒多量、カマド崩落土 | |

第13図 23号住居跡・カマド跡平・断面図

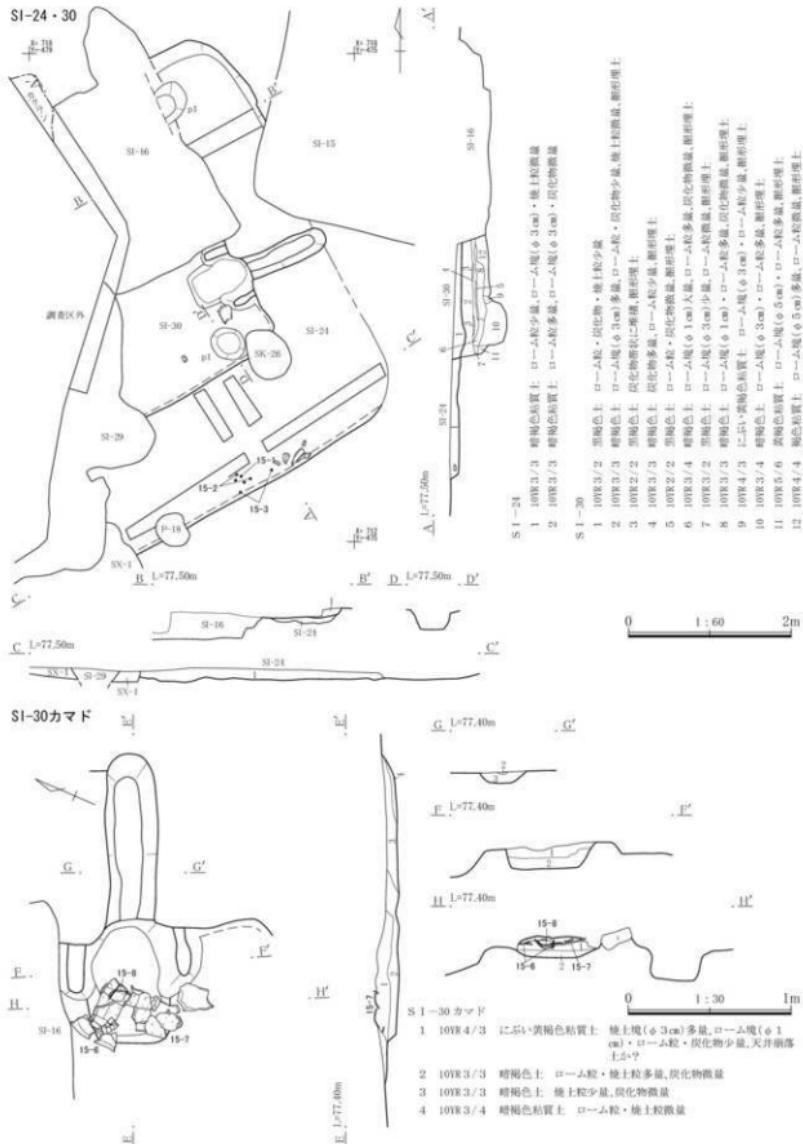
方形を呈すると思われる。床面幅で 2.26 m × [1.60] m 確認された。壁高は 14 cm 残存する。 東・西壁方位 東壁 N 29° W 床面・掘形 床面は概ね平坦である。貼床は確認されていない。 カマド 北東隅部の張り出し部が煙道と考えられるが、明瞭な燃焼面は認められない。 住居内施設 東西幅のほぼ中央と思われる位置に、南北方向に 2 個検出された。2 個とも直径約 35 cm。 出土遺物 床面から土器師坏 (1)、覆土中から土器師坏 (2・3)、刀子 (4) が出土している。 所見 煙道部と考えられる張り出し部とビットから堅穴住居跡と考えられる。所属時期は、床面から出土した遺物から 7 世紀前半代と考えられる。

23号堅穴住居跡 (第13図)

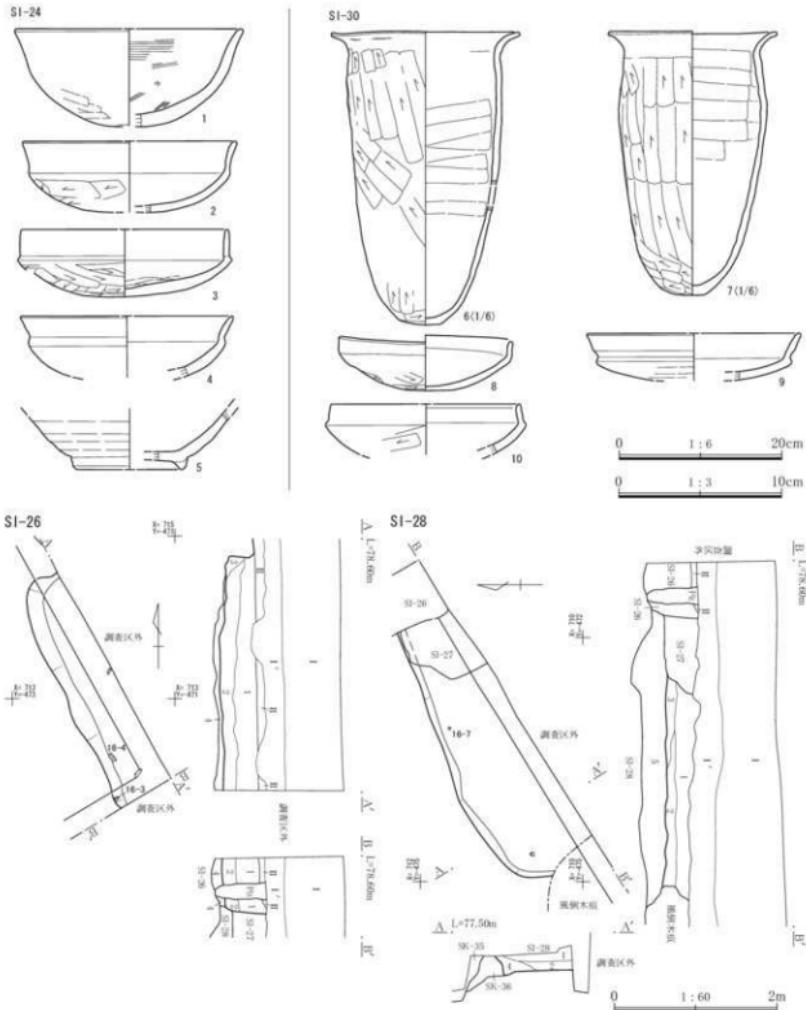
位置 調査区中央部 (X = 723 ~ 726, Y = 482 ~ 484) 検出状況 住居跡集中地域であるが、カマドが確認されたため、表土除去後平面形を確認。東壁のみ検出された。その他は調査区外にある。 重複 22・32号住居跡よりも新しい。 規模 平面は隅丸方形を呈すると思われる。床面幅で 2.60 m × [0.22] m 確認された。壁高は 32 cm 残存する。 東・西壁方位 東壁 N 32° W 床面・掘形 床面は概ね平坦である。カマド底面のみ掘形が確認された。 カマド 東壁のほぼ中央部に位置する。 住居内施設 カマドの右側南東隅部に貯藏穴 1 基確認された。 出土遺物 図示し得る遺物は出土しなかった。 所見 東壁付近のみが検出された堅穴住居跡である。所属時期は、時期を判別できる遺物が出土していないため不明である。

24号堅穴住居跡 (第14・15図・写真図版3)

位置 調査区南部 (X = 712 ~ 719, Y = 474 ~ 479) 検出状況 表土除去後平面形を確認。東壁、南壁の部分のみ検出された。その他は調査区外にある。 重複 15・16・29・30号住居跡、26号土坑、1号性格不明遺構、ビット 18 よりも古い。 規模 平面は隅丸方形を呈すると思われる。床面幅で 4.96 m × [3.81] m 確認された。壁高は 10 cm 残存する。 東・西壁方位 東壁 N 28° W 床面・掘形 床面は概ね平坦である。東壁側で掘形が確認された。 カマド 確認されていない。 住居内施設 北東隅部からビット 1 個が確認された。直径は約



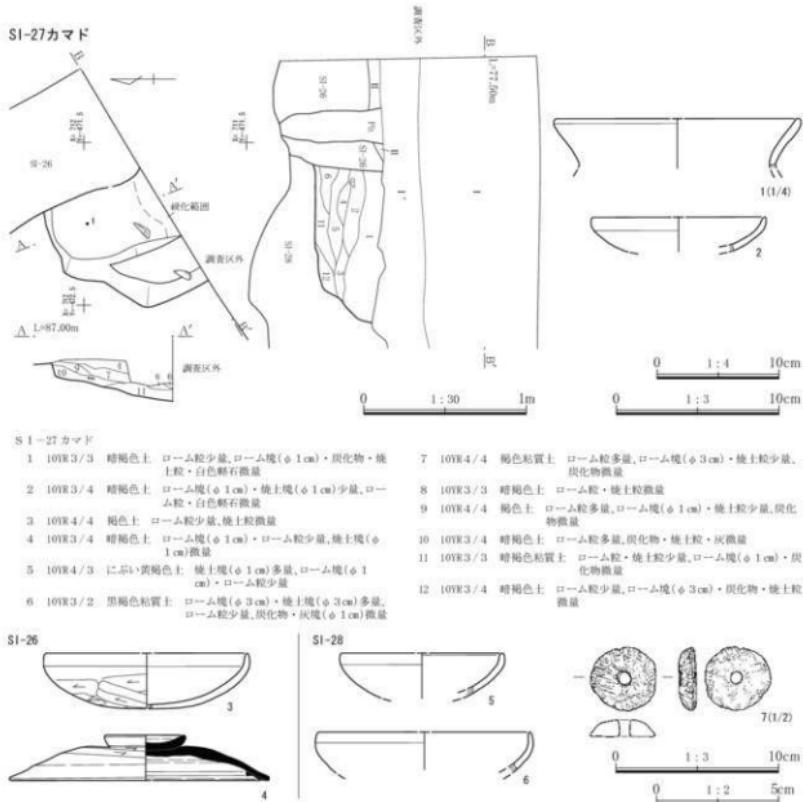
第14図 24号・30号住居跡・30号住居カマド跡平・断面図



- S I - 26
- 1 10YR 3 / 3 暗褐色土 ローム粒・白色解石少量、ローム塊(Φ 1 cm)・炭化物・埴土粒微量
 - 2 10YR 3 / 3 暗褐色土 ローム粒少量、ローム塊(Φ 1 cm)・炭化物・埴土粒・白色解石微量
 - 3 10YR 3 / 4 暗褐色土 ローム塊(Φ 3 cm)少量、白色解石微量
 - 4 10YR 3 / 4 暗褐色土 ローム塊(Φ 3 cm)・ローム粒多量、炭化物・埴土粒微量、胎形埋土

- S I - 28
- 1 10YR 3 / 3 暗褐色土 ローム粒少量、ローム塊(Φ 1 cm)・炭化物・埴土粒微量
 - 2 10YR 3 / 3 暗褐色土 ローム粒少量、炭化物・埴土粒微量
 - 3 10YR 3 / 3 暗褐色土 ローム塊(Φ 1 cm)・ローム粒少量、炭化物・埴土粒微量
 - 4 10YR 3 / 4 暗褐色土 ローム粒・埴土粒少量、炭化物微量

第 15 図 24 号・30 号住居跡出土遺物、26 号・28 号住居跡平・断面図

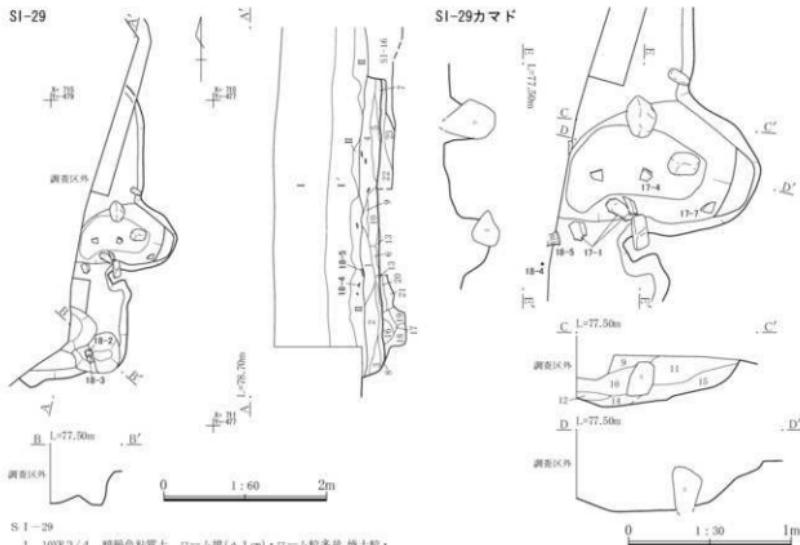


第16図 27号住居カマド跡平・断面図、26～28号住居跡出土遺物

44 cm、深さが 14 cm である。位置的に柱穴である可能性が高い。**出土遺物** 床面から土師器壺（15図4）、覆土中から土師器壺（15図1～3）、酸化焰焼成須恵器（15図5）が出土している。**所見** 住居内施設は確認されていないが、形態の特徴から竪穴住居跡であると考えられる。所属時期は、床面から出土した遺物から5世紀後半と考えられる。

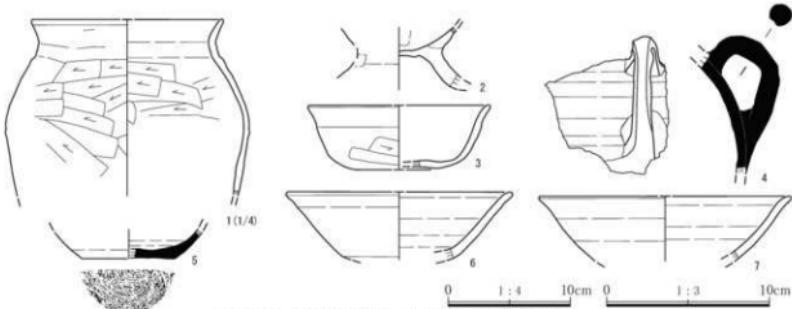
30号竪穴住居跡（第14・15図・写真図版2・3）

位置 調査区南部（X = 713～716、Y = 475～478）**検出状況** 表土除去後平面形を確認。南東隅部のみ検出された。北東隅部は16号住居跡に切られ、西半分は調査区外にある。**重複** 24号住居跡よりも新しく、16・29号住居跡、26号土坑よりも古い。**規模** 平面は隅丸方形を呈すると思われる。床面幅で [2.04] m × [1.44] m確認された。壁高は 10 cm 残存する。**東・西壁方位** 東壁 N 30° W 床面・掘形 床面は概ね平坦である。深さ約 35 cm の掘形が確認された。**カマド** 東壁で確認された。カマド前面で甕2個体確認された。**住居内施設** 南東隅部から貯蔵穴1個が確認された。規模は 44 cm × 37 cm、深さが 20 cm である。**出土遺物** 力

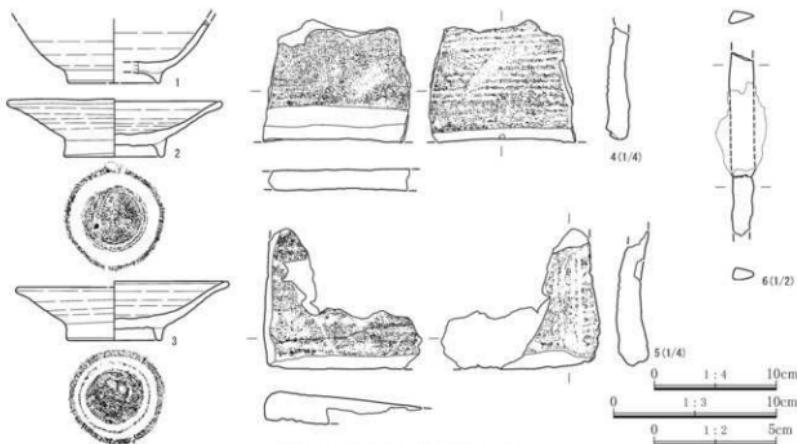


- SI-29
 1 10W3/4 粘褐色粘質土 ローム塊(φ 1cm)・ローム粒多量、焼土粒・白色軽石少量、炭化物微量
 2 10W3/4 粘褐色粘質土 ローム粒少量、炭化物、白色軽石微量
 3 10W3/2 黒褐色土 ローム粒多量、焼土粒・白色軽石少量、炭化物微量
 4 10W3/3 喀褐色土 ローム粒・焼土粒・白色軽石少量
 5 10W3/2 黑褐色土 ローム粒・焼土粒・白色軽石少量、炭化物微量
 6 10W3/2 黑褐色粘質土 ローム粒少量、炭化物、焼土粒微量
 7 10W3/2 黑褐色土 ローム粒・白色軽石少量
 8 7.5W2/2 黑褐色粘質土 ローム粒・炭化物、焼土粒・白色軽石微量
 9 10W4/4 楊褐色粘質土 ローム塊(φ 1cm)・ローム粒多量、焼土粒微量、カマド落土
 10 10W4/4 楊褐色粘質土 ローム塊(φ 1cm)・ローム粒大量、焼土粒微量、カマド落土
 11 10W3/4 喀褐色粘質土 ローム塊(φ 1cm)・ローム粒・焼土塊(φ 3cm)多量、炭化物微量、カマド落土
 12 S1.5/0 黑色土 炭化物多量、ローム粒・焼土粒微量、カマド灰層

- 13 S3/0 粘淡色土 ローム粒微量、カマド灰層
 14 10W2/3 黑褐色粘質土 ローム塊(φ 1cm)・ローム粒多量、炭化物・焼土粒微量、カマド覆土
 15 10W2/3 黑褐色粘質土 ローム塊(φ 1cm)・ローム粒多量、焼土粒微量、カマド覆土
 16 10W3/2 黑褐色土 ローム粒多量、焼土粒少量、炭化物微量、貯藏穴覆土
 17 10W3/1 黑褐色粘質土 ローム粒少量、ローム塊(φ 1cm)微量、貯藏穴覆土
 18 10W3/1 黑褐色粘質土 ローム塊(φ 1cm)・ローム粒多量、炭化物・焼土粒微量、貯藏穴覆土
 19 10W3/1 黑褐色粘質土 ローム塊(φ 3cm)多量、貯藏穴覆土
 20 10W3/2 黑褐色土 ローム粒・白色軽石少量、断面埋土
 21 10W3/3 喀褐色土 ローム塊(φ 3cm)・ローム粒多量、断面埋土
 22 10W3/3 喀褐色粘質土 ローム粒多量、焼土粒微量、断面埋土
 23 10W3/1 黑褐色粘質土 ローム粒多量、ローム塊(φ 1cm)少量、焼土粒微量、断面埋土



第17図 29号住居跡平・断面図、出土遺物 (1)



第18図 29号住居跡出土遺物(2)

マド前面から土師器甕(15図6・7)が出土し、15図6は設置されたもの、15図7は焚口天井の補強材と思われる。15図6の中に土師器甕(15図8)が入っていた。覆土中から土師器甕(15図9)、掘形から土師器甕(15図10)が出土している。 所見 南東隅部とカマドが確認された堅穴住居跡である。所属時期は、カマドの出土遺物から6世紀後半と考えられる。

26号堅穴住居跡 (第15・16図・写真図版4)

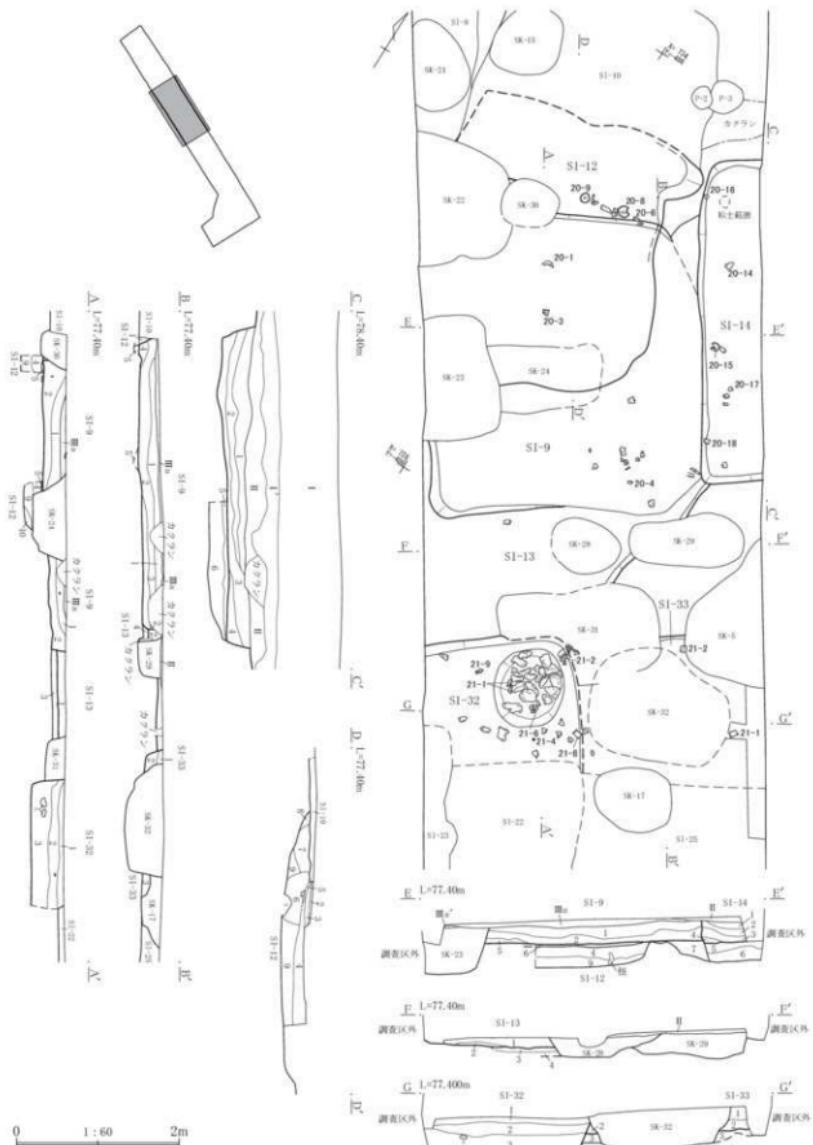
位置 調査区南部(X=712~715, Y=471~473) **検出状況** 表土除去後平面形を確認。西壁の北半分のみ検出された。その他は調査区外にある。 **重複** 27号住居跡よりも新しい。 **規模** 平面は隅丸方形を呈すると思われる。床面幅で[2.84] m × [1.05] m確認された。壁高は30 cm残存する。 **東・西壁方位** 西壁 N 28° W **床面・掘形** 床面は概ね平坦であるが、中央部が若干低い。ローム塊を多量含む暗褐色土の貼床が確認された。 **カマド** 確認されていない。 **住居内施設** 確認されていない。 **出土遺物** 覆土中から土師器甕(16図3)、須恵器坏蓋(16図4)が出土している。 **所見** 西壁の一部が確認された遺構であるが、形態の特徴から堅穴住居跡と判断した。所属時期は、出土した遺物から8世紀代と考えられる。

28号堅穴住居跡 (第15・16図・写真図版4)

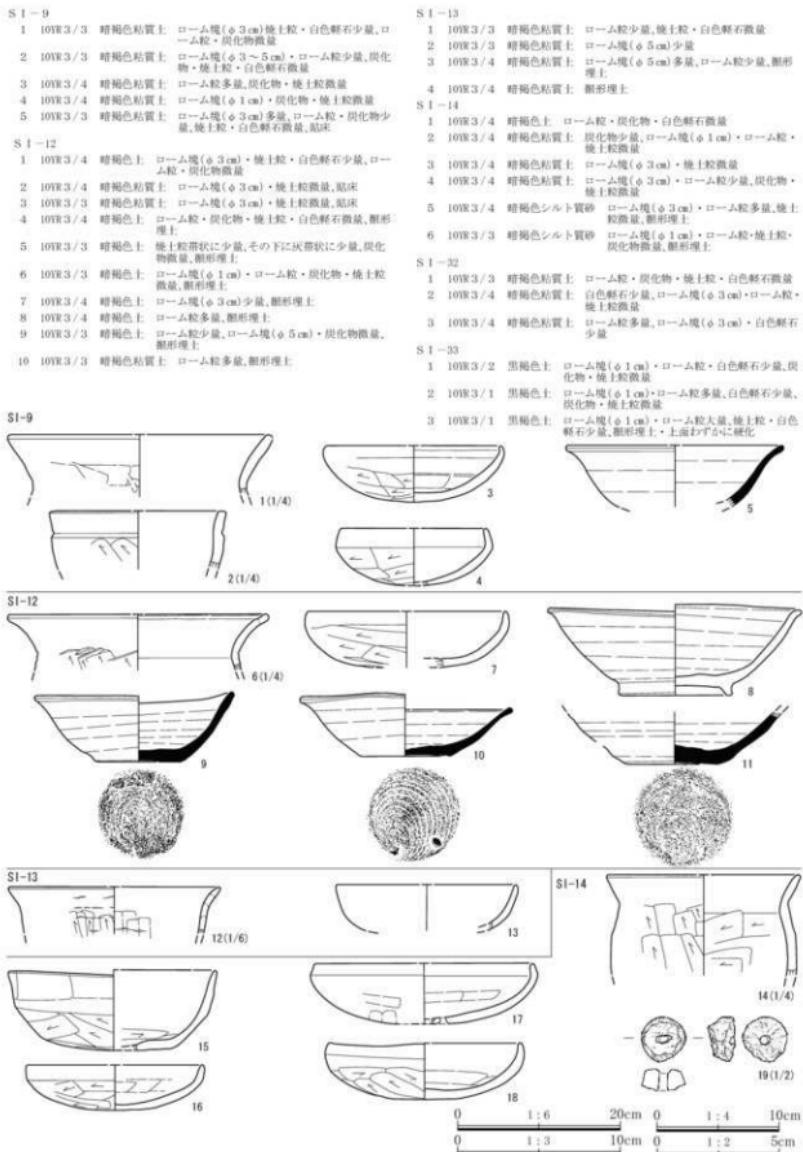
位置 調査区南部(X=710~713, Y=471~475) **検出状況** 表土除去後平面形を確認。北壁のみ検出された。北壁の東端部は26号住居跡に切られ、その他は調査区外にある。 **重複** 26・27号住居跡よりも古く、36号土甕よりも新しい。 **規模** 平面は隅丸方形を呈すると思われる。床面幅で[3.52] m × [9.02] m確認された。壁高は30 cm残存する。 **北壁方位** N 64° E **床面・掘形** 床面は概ね平坦である。深さ約32 cmの掘形が確認された。 **カマド** 確認されていない。 **住居内施設** 確認されていない。 **出土遺物** 床面から石製紡錘車(16図7)、覆土中から土師器甕(16図5・6)が出土している。 **所見** 北壁の一部のみが確認された遺構で住居内施設が確認されていないが、壁面の形態の様相から堅穴住居跡と判断した。所属時期は、出土した遺物から7世紀以降と考えられる。

27号堅穴住居跡 (第16図)

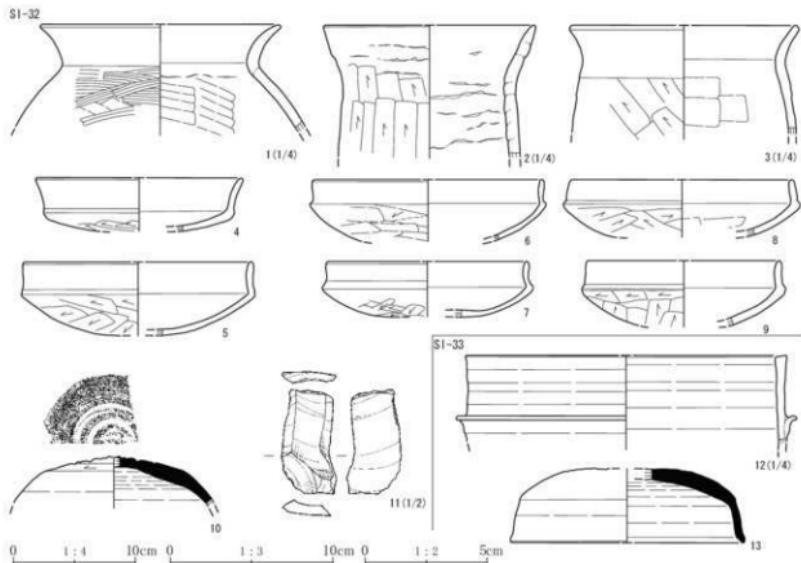
位置 調査区南部(X=711~713, Y=471~473) **検出状況** 表土除去後平面形を確認。カマドのみ検出された。その他は調査区外にある。 **重複** 26号住居跡よりも古く、28号住居跡よりも新しい。 **規模** 平面は不明である。 **カマド長軸方位** N 24° W **カマド底面** 概ね平坦である。 **住居内施設** 確認されていない。



第19図 9号・12～14号・32号・33号住居跡平・断面図



第 20 図 9 号・12 ~ 14 号住居跡出土遺物



第21図 32号・33号住居跡出土遺物

出土遺物 カマド覆土中から土師器甕（16図1）・坏（16図2）が出土している。 **所見** カマドのみが検出された堅穴住居跡である。所属時期は、出土した遺物から8世紀代と考えられる。

29号堅穴住居跡（第17・18図・写真図版2～4）

位置 調査区南部（X = 711～716, Y = 477～480） **検出状況** 表土除去後平面形を確認。東壁と南壁の一部のみ検出された。その他は調査区外にある。 **重複** 16号住居跡よりも古く、24・30号住居跡より新しい。

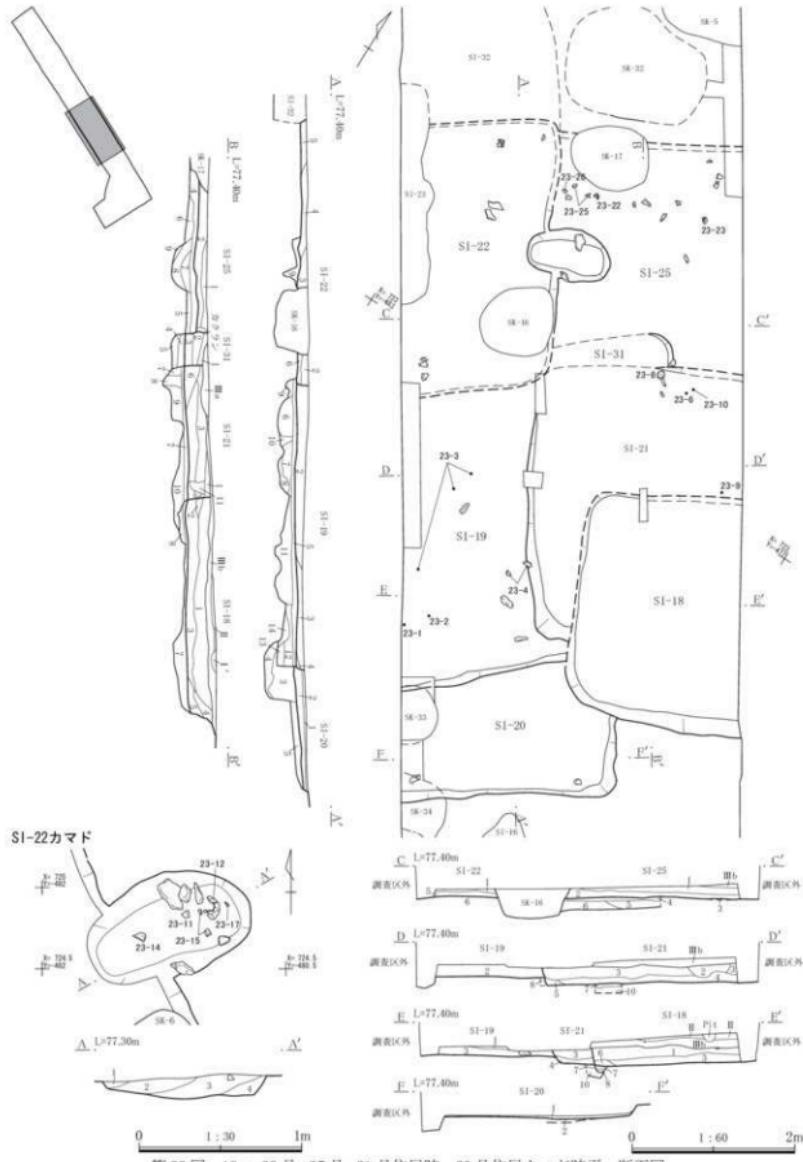
規模 平面は隅丸方形を呈すると思われる。床面幅で[3, 50] m × [1, 08] m確認された。壁高は26 cm残存する。

東・西壁方位 東壁 N 5° E **床面・掘形** 床面は概ね平坦であるが、中央部が若干高い。 **カマド** 東壁のほぼ中央に位置する。袖石及び支柱石が検出された。**住居内施設** 南東隅部から貯蔵穴2基確認。**出土遺物** カマド覆土中から土師器甕（17図2）、須恵器壺（17図4）、酸化焰焼成須恵器坏（17図7）、貯藏穴から土師器坏（17図3）、酸化焰焼成須恵器高台付坏（17図6）、高台付皿（18図2・3）、覆土中から土師器甕（17図1）、須恵器坏（17図5）、酸化焰焼成須恵器高台付坏（18図1）、瓦片（18図4・5）、刀子（18図6）が出土している。 **所見** 東壁とカマド・貯蔵穴が検出された堅穴住居跡である。所属時期は、出土した遺物から9世紀以降と考えられる。

9号堅穴住居跡（第19・20図・写真図版3）

位置 調査区中央部（X = 727～733, Y = 482～487） **検出状況** 表土除去後は全面遺構覆土であったため確認できなかった。格子状にセクションベルトを設定し、面的に掘り下げ床面を確認した。 **重複** 14号住居跡、22～24・30号土坑よりも古く、12・13号住居跡より新しい。 **規模** 平面は不正方形を呈すると思われる。床面幅で[3, 55] m × [3, 50] m確認された。壁高は土層断面で25 cm確認された。 **東・西壁方位** 西壁 N 33° W **床面・掘形** 床面は概ね平坦である。 **カマド** 確認されていない。 **住居内施設** 確認されていない。

出土遺物 床面から土師器甕（20図1）、覆土中から土師器小型甕（20図2）・坏（20図3・4）、須恵器坏（20



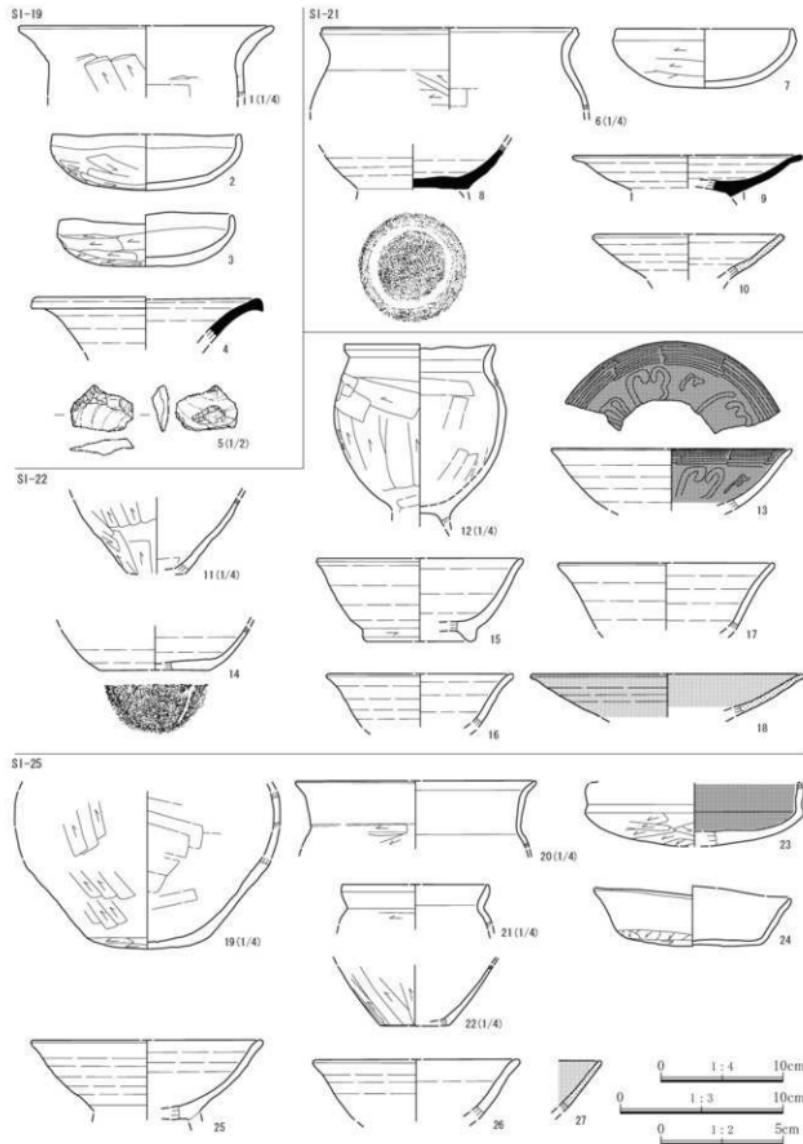
第22図 18～22号・25号・31号住居跡、22号住居カマド跡平・断面図

S 1 - 18	1 10YR3 / 4 暗褐色土 ローム粒・白色鮮石多量、焼土粒微量 2 10YR3 / 2 黒褐色土 ローム粒・白色鮮石微量 3 10YR3 / 1 黒褐色土 ローム粒多量、ローム塊(φ 1 cm)・白色鮮石少量、炭化物・焼土粒微量 4 7.5YR3 / 3 暗褐色土 ローム粒微量 5 10YR3 / 1 黑褐色土 ローム粒多量、ローム塊(φ 1 cm)少量、燒土粒微量 6 10YR3 / 1 黑褐色土 ローム粒少量、ローム塊(φ 3 cm)・炭化物・燒土粒微量 7 10YR3 / 1 黑褐色土 ローム塊(φ 1 cm)・ローム粒多量、灰・燒土粒微量、粘土・硬膜強い 8 10YR2 / 1 黑色土 ローム粒少量、燒土粒微量、細形理上	5 10YR3 / 1 黑褐色土 ローム塊(φ 1 cm)・ローム粒多量、炭化物・燒土粒・白色鮮石微量 6 10YR4 / 2 黄褐色土 ローム塊(φ 1 cm)・ローム粒大量、白色鮮石少量、燒土粒微量 7 10YR3 / 4 暗褐色粘质土 ローム塊(1 cm)・ローム粒大量、炭化物・燒土粒微量、粘土 8 10YR3 / 4 暗褐色土 ローム粒・燒土粒微量、細形理土 9 10YR3 / 4 暗褐色粘质土 ローム粒・白色粘石微量、细形理土 10 10YR3 / 1 黑褐色粘质土 ローム塊(φ 1 cm・3 cm)・ローム粒大量、燒土粒・白色鮮石微量、細形理土 11 10YR3 / 4 暗褐色土 白色鮮石少量、ローム粒・燒土粒微量、根痕と思われる
S 1 - 19	1 10YR3 / 3 暗褐色土 ローム粒多量、ローム塊(φ 1 cm)・白色鮮石少量、燒土粒微量 2 10YR3 / 2 黑褐色土 ローム塊(φ 1 cm)・ローム粒多量、白色鮮石少量、燒土粒微量 3 10YR3 / 3 暗褐色土 ローム塊(φ 1 cm)・ローム粒多量、白色鮮石少量、燒土粒微量 4 10YR3 / 2 黑褐色土 ローム塊(φ 1 cm)・ローム粒多量、ローム塊(φ 2 cm)・白色鮮石少量、炭化物・燒土粒微量 5 10YR3 / 1 黑褐色粘质土 ローム塊(1 cm)大量、ローム粒多量、燒土粒少量、白色鮮石微量 6 10YR3 / 4 暗褐色土 ローム塊(φ 3 cm)・炭化物少量、ローム粒・燒土粒微量、粘土・硬膜強い 7 10YR3 / 4 暗褐色土 燃土粒少量、ローム塊(φ 5 cm・1 cm)・ローム粒微量 8 10YR3 / 4 暗褐色土 ローム粒少量、ローム塊(φ 1 cm)・燒土粒微量、細形理上 9 10YR3 / 3 暗褐色粘质土 ローム粒・燒土粒微量、細形理土 10 10YR3 / 3 暗褐色土 ローム塊(φ 1 cm)・ローム粒微量、細形理上 11 10YR3 / 4 暗褐色土 ローム粒多量、ローム塊(φ 1 cm)微量、細形理上 12 10YR3 / 4 暗褐色土 ローム塊(φ 5 cm)・ローム粒少量、炭化物(φ 3 cm)・燒土粒微量、細形理上 13 10YR3 / 3 暗褐色粘质土 ローム塊(φ 3 cm)・ローム粒・燒土粒少量、燒土粒微量、細形理土 14 10YR3 / 3 暗褐色粘质土 燃土粒少量、ローム粒微量、細形理上	5 10YR3 / 4 暗褐色土 ローム粒少量、燒土粒・白色鮮石微量 2 7.5YR2 / 3 暗褐色土 ローム粒・燒土块(φ 5 cm)・白色鮮石少量 3 10YR3 / 2 黑褐色土 ローム粒多量、ローム塊(φ 1 cm)少量、燒土粒・白色鮮石微量 4 10YR3 / 2 黑褐色土 ローム塊(φ 1 cm)・ローム粒多量、炭化物・燒土粒・白色鮮石微量 5 10YR3 / 2 黑褐色土 ローム塊(φ 1 cm)・燒土块(φ 1 cm)多量、ローム粒少量、炭化物・白色鮮石微量 6 10YR3 / 1 黑褐色粘质土 ローム粒大量、ローム塊(φ 3 cm)少量、燒土粒微量、細形理土・上面硬化 7 10YR3 / 1 黑褐色粘质土 ローム塊(φ 1 cm)多量、ローム粒・燒土粒少量、炭化物・白色鮮石微量、細形理土
S 1 - 22	1 10YR4 / 6 黑色土 ローム粒・炭化物・燒土粒微量 2 10YR3 / 3 暗褐色土 ローム粒・炭化物少量、燒土粒微量 3 10YR3 / 4 暗褐色土 燃土块(φ 3 cm)多量、ローム粒・炭化物・灰少量 4 10YR3 / 2 黑褐色土 燃土块(φ 1 cm)多量、ローム粒・炭化物微量	S 1 - 22 カツド
S 1 - 25	1 10YR3 / 4 暗褐色土 ローム粒・白色鮮石少量、燒土粒微量 2 10YR3 / 4 暗褐色土 ローム粒多量、燒土粒・白色鮮石少量、炭化物微量 3 10YR3 / 3 暗褐色土 ローム粒多量、燒土粒少量、白色鮮石微量 4 7.5YR3 / 4 暗褐色粘质土 ローム塊(φ 1 cm)・ローム粒・白色鮮石少量、燒土粒微量、細形理土	1 10YR3 / 2 黑褐色土 ローム塊(φ 1 cm)・ローム粒多量、白色鮮石少量、燒土粒微量、細形理土 2 10YR3 / 2 黑褐色土 ローム塊(φ 1 cm)・ローム粒多量、白色鮮石少量、燒土粒微量、細形理土 3 10YR3 / 2 黑褐色土 白色鮮石微量、床下土層覆土 4 10YR3 / 4 暗褐色土 ローム粒多量、炭化物・燒土粒微量、床下土層覆土 5 10YR3 / 3 暗褐色土 ローム塊(φ 5 cm)・ローム粒・燒土粒微量、床下土層覆土
S 1 - 20	1 10YR3 / 2 黑褐色土 ローム粒多量、ローム塊(φ 1 cm)・炭化物・燒土粒・白色鮮石少量 2 10YR3 / 1 黑褐色粘质土 ローム粒多量、ローム塊(φ 5 cm)少量、炭化物・燒土粒微量、白色鮮石微量 3 10YR3 / 3 暗褐色粘质土 ローム粒少量、炭化物・燒土粒微量、細形理土 4 10YR4 / 4 暗褐色粘质土 ローム粒・燒土粒多量、白色鮮石上塊(φ 5 cm)微量、細形理上 5 10YR3 / 4 暗褐色粘质土 ローム塊(φ 3 cm)・ローム粒少量、燒土粒微量、細形理上	S 1 - 31
S 1 - 21	1 10YR3 / 4 暗褐色土 白色鮮石多量、ローム粒少量、燒土粒微量 2 10YR3 / 4 暗褐色土 ローム粒大量、覆土中の小ビックル? 3 10YR4 / 4 黑褐色土 ローム塊(φ 1 cm)・ローム粒多量、炭化物・燒土粒・白色鮮石微量 4 10YR3 / 4 暗褐色土 ローム粒多量、ローム塊(φ 1 cm)・白色鮮石少量、炭化物・燒土粒微量	1 10YR3 / 3 暗褐色土 ローム粒・白色鮮石微量 2 10YR3 / 3 暗褐色土 ローム塊(φ 1 cm)・ローム粒・白色鮮石少量、炭化物・燒土粒微量 3 10YR3 / 4 暗褐色土 ローム塊(φ 1 cm)多量、ローム粒・燒土粒・白色鮮石少量 4 10YR3 / 4 暗褐色砂質土 ローム粒・燒土粒少量、ローム塊(φ 3 cm)微量、細形理土 5 10YR3 / 4 暗褐色砂質土 ローム塊(φ 5 cm)・ローム粒多量、燒土粒微量、細形理土

図 5) が出土している。所見 住居内施設は検出されなかつたが、南東隅の形態・床面の様相から竪穴住居跡と判断した。所属時期は、出土した遺物から 7 世紀以降と考えられる。

12 号竪穴住居跡 (第 19・20 図・写真図版 2・3)

位置 調査区中央部 (X = 729 ~ 734, Y = 484 ~ 487) 検出状況 9・10 号住居跡の床面下から確認され、床面のみが検出された。重複 9・10 号住居跡、22 ~ 24・30 号土坑よりも古い。規模 平面は隅丸方形を呈すると思われる。床面幅で (3.46) m × (2.72) m 確認された。住居壁は残存していない。東・西壁方位 東壁 N 27° W 床面・掘形 残存する床面は少ないが概ね平坦である。約 30 cm の深さの掘形が認められた。



第23図 19号・21号・22号・25号住居跡出土遺物

カマド 北東隅部が東側へ張り出していることから煙道部と考えられるが、明瞭なカマド痕跡を示すものは確認されていない。後から造られた10号住居跡のほぼ同じ位置に見られた焼土・炭化物は本住居跡のカマドのものであった可能性が考えられる。**住居内施設** 確認されていない。**出土遺物** 床面から須恵器壺(20図9)、酸化焰焼成須恵器高台付壺(20図8)、覆土中から土師器甕(20図6)、須恵器壺(20図11)、掘形から土師器壺(20図7)、須恵器壺(20図10)が出土している。**所見** 煙道部と思われる北東隅部の張り出し、遺物の出土状況から竪穴住居跡と判断した。所属時期は、床面から出土した遺物から7世紀代と考えられる。

13号竪穴住居跡 (第19・20図・写真図版3)

位置 調査区中央部(X=727~733, Y=482~486) **検出状況** 表土除去後は全面遺構覆土であったため確認できなかった。格子状にセクションベルトを設定し、面的に掘り下げ床面を確認した。東壁の一部のみ検出された。**重複** 9・14・32号住居跡、28・29・31号土坑よりも古い。**規模** 平面は残存状況が悪いため不明である。床面幅で[3.64]m×[2.74]m確認された。壁高は5cm残存する。**東・西壁方位** 東壁 N 13° E **床面・掘形** 床面は概ね平坦である。ローム塊を多量に含む暗褐色粘質土の貼床が確認された。**カマド** 確認されていない。**住居内施設** 確認されていない。**出土遺物** 覆土中から土師器甕(20図12)・壺(20図13)が出土している。**所見** 東壁の一部のみ検出された遺構であるが、床面の様相から竪穴住居跡と判断した。所属時期は、出土した遺物から5世紀後半以降と考えられる。

14号竪穴住居跡 (第19・20図・写真図版4)

位置 調査区中央部(X=729~734, Y=482~485) **検出状況** 表土除去後平面形を確認。西壁のみ検出された。その他は調査区外にある。**重複** 9・13号住居跡よりも新しい。**規模** 平面は隅丸方形を呈すると思われる。床面幅で[3.84]m×[0.72]m確認された。壁高は41cm残存する。**東・西壁方位** 西壁 N 34° W **床面・掘形** 床面は概ね平坦である。ローム塊を多量に含む暗褐色粘質土の貼床が確認された。**カマド** 確認されていない。**住居内施設** 確認されていない。**出土遺物** 床面から土師器甕(20図14)、覆土中から土師器壺(20図15~18)、掘形から白玉未成品(20図19)が出土している。**所見** 西壁のみが検出された遺構であるが、形態の特徴および床面の様相から竪穴住居跡と判断した。所属時期は、出土した遺物から8世紀以降と考えられる。

32号竪穴住居跡 (第19・21図・写真図版4)

位置 調査区中央部(X=725~728, Y=482~485) **検出状況** 表土除去後は全面遺構覆土であったため確認できなかった。格子状にセクションベルトを設定し、面的に掘り下げ床面を確認した。北東隅部のみ検出された。南側は22・23号住居跡に切られ、西側は調査区外にある。**重複** 22・23号住居跡よりも古く、13・33号住居跡、31号土坑よりも新しい。**規模** 平面は北東隅部のみの残存であるが、隅丸方形を呈すると思われる。床面幅で[1.94]m×[1.42]m確認された。壁高は36cm残存する。**東・西壁方位** 西壁 N 34° W **床面・掘形** 床面は概ね平坦である。貼床は確認されていない。**カマド** 確認されていない。**住居内施設** 北東隅部に集石を伴う土坑1基が確認された。集められていた石には被熱を受けたものも見られる。**出土遺物** 床面から土師器甕(21図1)、覆土中から土師器甕(21図2・3)・壺(21図4~9)、須恵器壺蓋(21図10)、剥片(21図11)が出土している。**所見** 北東隅部のみが検出された遺構であるが、形態の特徴および床面の様相から竪穴住居跡と判断した。北東隅部に集石を伴う土坑が確認された。所属時期は、出土した遺物から6世紀前半と考えられる。

33号竪穴住居跡 (第19・21図・写真図版4)

位置 調査区中央部(X=726~728, Y=480~483) **検出状況** 表土除去後は全面遺構覆土であったため確認できなかった。格子状にセクションベルトを設定し、面的に掘り下げ床面を確認した。北壁の一部のみ検出された。南・西側は22・25・32号住居跡に切られ、東側は調査区外にある。**重複** 22・25・32号住居跡、5・17・31・32号土坑よりも古い。**規模** 平面は残存状況が悪いため不明である。床面幅で[2.05]m×[1.76]m確認された。壁高は4cm残存する。**東・西壁方位** 残存状況が悪いため測定できない。**床面・掘形** 床面

は概ね平坦である。ローム塊を多量に含む黒褐色土の貼床が確認された。 カマド 確認されていない。 住居内施設 確認されていない。 出土遺物 覆土中から羽釜（21図12）、須恵器壺蓋（21図13）が出土している。

所見 残存状況が悪いが、床面の様相から竪穴住居跡と判断した。出土遺物が後世に流れ込んだものであることから、所属時期は不明である。

18号竪穴住居跡（第22図）

位置 調査区中央部（X = 720 ~ 724、Y = 476 ~ 480） 検出状況 表土除去後は南壁のみ確認され、その他は全面遺構覆土であったため確認できなかった。格子状にセクションベルトを設定し、面的に掘り下げ床面を確認した。西壁と北・南壁の一部が検出された。東壁は調査区外にある。 重複 19 ~ 21号住居跡よりも新しい。

規模 平面は隅丸方形を呈すると思われる。床面幅で 2.54 m × [2.02] m 確認された。壁高は 32 cm 残存する。

東・西壁方位 西壁 N 24° W 床面・掘形 床面は概ね平坦である。壁側が深い掘形が確認された。 カマド 確認されていない。 住居内施設 確認されていない。 出土遺物 図示し得る遺物は出土していない。

所見 住居内施設は確認されていないが、形態の特徴および床面の様相から竪穴住居跡と判断した。所属時期は、時期の判別できる遺物が出土していないため不明である。

19号竪穴住居跡（第22・23図・写真図版3）

位置 調査区中央部（X = 719 ~ 724、Y = 478 ~ 482） 検出状況 表土除去後は全面遺構覆土であったため確認できなかった。格子状にセクションベルトを設定し、面的に掘り下げ床面を確認した。南壁の一部のみ検出された。北側は22号住居跡に、東側は21号住居跡に切られ、西壁は調査区外にある。 重複 18・21・22号住居跡よりも古く、20号住居跡、33号土坑より新しい。 規模 平面は残存状態が悪いため不明である。床面幅で [3.40] m × [2.06] m 確認された。壁高は土層断面で 11 cm 確認された。 南壁方位 N 46° E 床面・掘形 床面は概ね平坦である。掘形は確認されていない。 カマド 確認されていない。 住居内施設 確認されていない。 出土遺物 床面から土師器甕（23図1）・壺（23図2）、須恵器壺（23図4）、覆土中から土師器壺（23図3）、剝片が出土している。 所見 南壁の一部のみの検出であるが、床面の様相から竪穴住居跡と判断した。所属時期は、床面から出土した遺物から7世紀代と考えられる。

20号竪穴住居跡（第22・23図）

位置 調査区中央部（X = 718 ~ 721、Y = 477 ~ 480） 検出状況 表土除去後平面形を確認。南壁、東壁の一部のみ検出された。北側は19号住居跡に、東側は18号住居跡に切られ、西壁は調査区外にある。 重複 18・19・19号住居跡、33号土坑よりも古く、34号土坑より新しい。 規模 平面は隅丸方形を呈すると思われる。床面幅で [2.58] m × [1.56] m 確認された。 東・西壁方位 東壁 N 31° W 床面・掘形 床面は概ね平坦である。ローム塊を多量に含む暗褐色粘質土の貼床が確認された。 カマド 確認されていない。 住居内施設

床下土坑1基が確認された。 出土遺物 図示し得る遺物は出土していない。 所見 南壁、東壁の一部のみ検出された遺構であるが、形態の特徴および床面の様相から竪穴住居跡と判断した。所属時期は、時期を判別できる遺物は出土していないが、他の遺構との切り合い関係から7世紀よりも古いものと考えられる。

21号竪穴住居跡（第22・23図・写真図版3）

位置 調査区中央部（X = 720 ~ 725、Y = 477 ~ 481） 検出状況 表土除去後は全面遺構覆土であったため確認できなかった。格子状にセクションベルトを設定し、面的に掘り下げ床面を確認した。西壁、北壁の一部のみ検出された。南側は18号住居跡に切られ、東壁は調査区外にある。 重複 18号住居跡よりも古く、19・20・31号住居跡より新しい。 規模 平面は隅丸方形を呈すると思われる。床面幅で 3.16 m × [2.58] m 確認された。壁高は 6 cm 残存する。 東・西壁方位 西壁 N 31° W 床面・掘形 床面は概ね平坦である。ローム塊を多量に含む暗褐色粘質土の貼床が確認された。 カマド 確認されていない。 住居内施設 確認されていない。 出土遺物 覆土中から土師器甕（23図6）・壺（23図7）、須恵器高台付壺（23図8）・高台付皿（23図9）、灰釉陶器（23図10）が出土している。 所見 西壁・北壁の一部のみ検出された遺構で、カマドなどの住居内施設は確認されなかったが、形態の特徴および床面の様相から竪穴住居跡と判断した。所属時期は、出土

遺物から8～9世紀代と考えられる。

22号竪穴住居跡（第22・23図・写真図版3・4）

位置 調査区中央部（X=722～726、Y=480～484）
検出状況 表土除去後は全面遺構覆土であったが、カマドが確認できることから平面を捉えることができた。東壁、南・北壁の東半分が検出された。西壁は北半分が23号住居跡によって切られ、南半分は調査区外にある。
重複 23号住居跡、16号土坑よりも古く、19・21・25・31号住居跡より新しい。
規模 平面は隅丸方形を呈すると思われる。床面幅で3.24m×[1.85]m確認された。
東・西壁方位 東壁 N30°W
床面・掘形 床面は概ね平坦である。ローム塊を多量に含む黒褐色粘質土の貼床が確認された。
カマド 東壁のほぼ中央部で確認された。焚口が竪穴の外にある形態である。
住居内施設 確認されていない。
出土遺物 カマド覆土中から土師器壺（23図11・12）・环（23図13）、酸化焰焼成須恵器壺（23図14）・高台付环（23図15・17）、覆土中から酸化焰焼成須恵器高台付环（23図16）、灰釉陶器（23図18）が出土している。
所見 東壁のほぼ中央部にカマドを持つ竪穴住居跡である。所属時期は、カマド内から出土した遺物から9世紀代と考えられる。

25号竪穴住居跡（第22・23図・写真図版3）

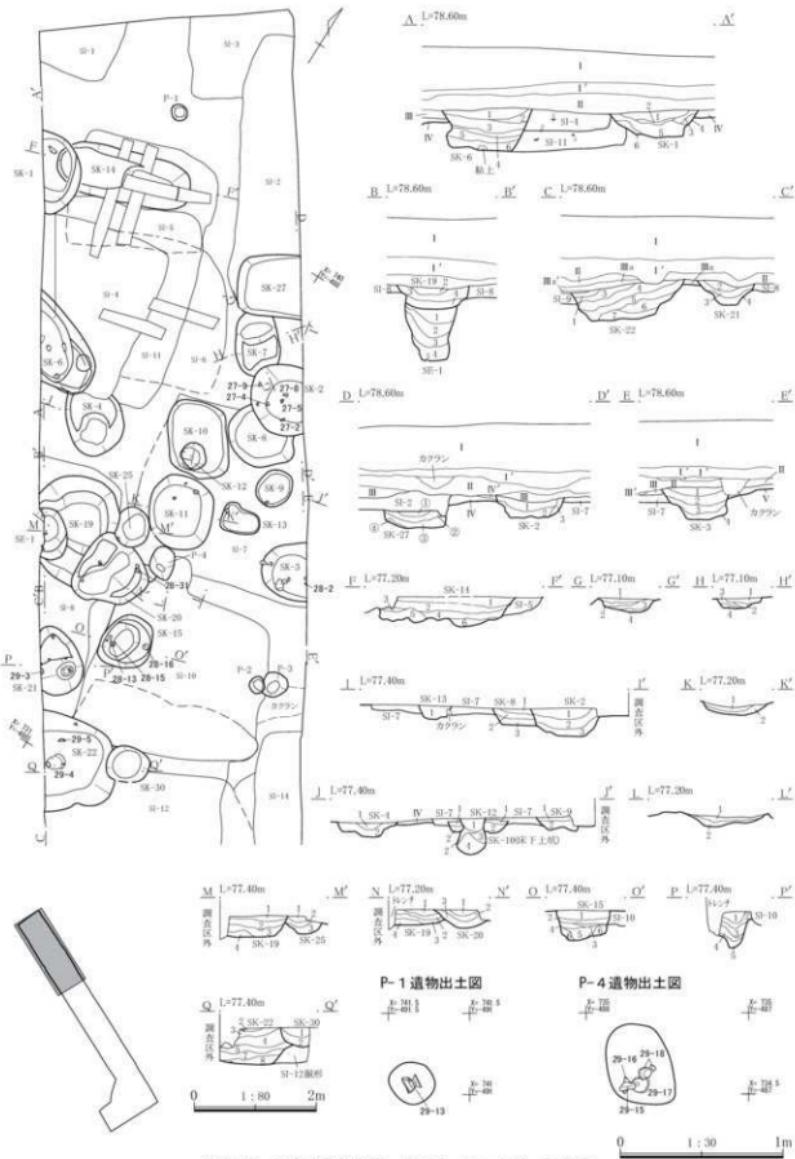
位置 調査区中央部（X=723～727、Y=478～482）
検出状況 表土除去後は全面遺構覆土であったため確認できなかった。格子状にセクションベルトを設定し、面的に掘り下げ床面を確認した。北壁の一部が検出された。西壁は22号住居跡に、南壁は21・31号住居跡によって切られ、東壁は調査区外にある。
重複 21・22・31号住居跡、17号土坑よりも古い。
規模 平面は残存状況がいため不明である。床面幅で[2.70]m×[2.38]m確認された。壁高は16cm残存する。
北壁方位 N63°E
床面・掘形 床面は概ね平坦である。ローム塊を含む暗褐色粘質土の貼床が確認された。
カマド 確認されていない。
住居内施設 確認されていない。
出土遺物 床面から土師器壺（23図24）、覆土中から土師器壺（23図19～22）・环（23図23）、酸化焰焼成須恵器高台付环（23図25・26）、灰釉陶器（23図27）が出土している。
所見 北壁の一部が検出された遺構であるが、形態の特長および床面の様相から竪穴住居跡と判断した。所属時期は、出土した遺物から9世紀代と考えられる。

31号竪穴住居跡（第22図）

位置 調査区中央部（X=723～725、Y=479～481）
検出状況 表土除去後は全面遺構覆土であったため確認できなかった。格子状にセクションベルトを設定し、面的に掘り下げ床面を確認した。北壁の一部が検出された。西壁は22号住居跡に、東・南壁は21号住居跡によって壊されている。
重複 21・22号住居跡よりも古い。
規模 平面は北東隅部の形態から隅丸方形を呈すると思われる。床面幅で[1.46]m×[0.42]m確認された。壁高は5cm残存する。
北壁方位 N51°E
床面・掘形 床面は概ね平坦である。深さ約15cmの掘形が確認された。
カマド 確認されていない。
住居内施設 確認されていない。
出土遺物 図示し得る遺物は出土していない。
所見 北壁の一部が検出された遺構であるが、形態の特長および床面の様相から竪穴住居跡と判断した。別番号をつけているが、本住居跡の北壁と19号住居跡の南壁がほぼ平行し、床面の高さもほぼ同じであることから、同一の住居跡とも考えられる。所属時期は、時期を判別できる遺物が出土していないため不明である。

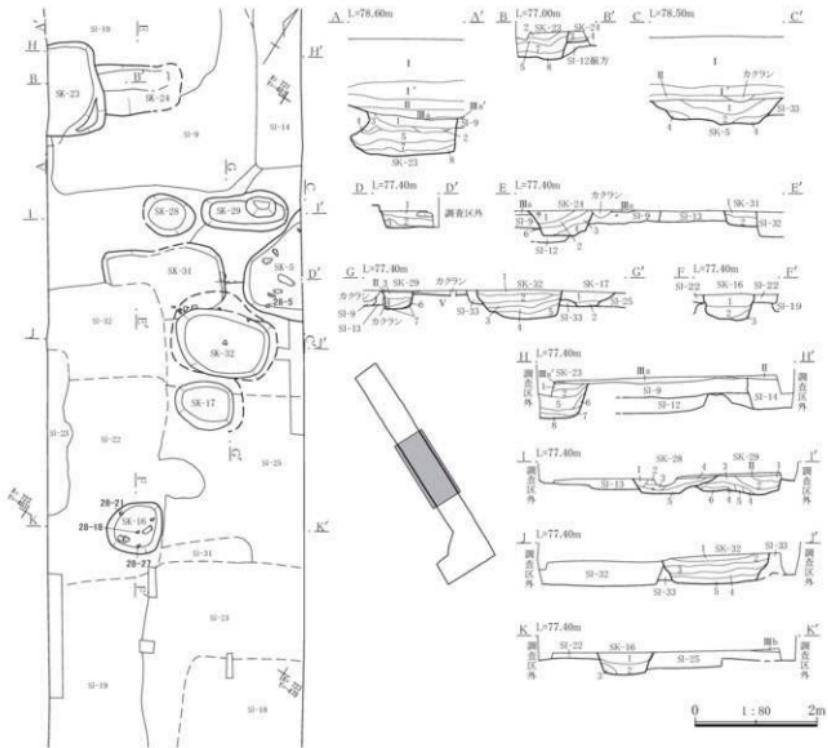
第3節 その他の遺構

今回の調査区域で検出された竪穴住居跡以外の遺構は、土坑36基、井戸跡1基、性格不明遺構1基、ピット22個である。今回の報告では、各遺構の位置関係を把握できるように個別の遺構平面図ではなく、調査区全体を3分割した平面図を調査区北部から提示し、土層断面図を併記している。各遺構の詳細については、遺構観察表に記載している。遺構の所属時期は、出土遺物に中世以降の新しい遺物が含まれていないことから、竪穴住居跡の営まれていた時間幅にはほぼ重なるものと思われる。



第24図 調査区北部土坑・井戸跡・ピット平・断面図

S K - 1		S K - 9
1 10YR3 / 3 暗褐色粘質土	ローム塊(φ 1 cm)・ローム粒少量、炭化物・ 焼土粒微量	1 10YR3 / 3 暗褐色粘質土 ローム粒・焼土粒微量
2 10YR3 / 3 暗褐色粘質土	ローム塊(φ 3 cm)・ローム粒少量、焼土粒微量	2 10YR3 / 3 暗褐色粘質土 焼土粒少量、ローム塊(φ 1 cm)・ローム粒・炭化物微量
3 10YR3 / 3 暗褐色粘質土	ローム塊(φ 1 cm)・ローム粒・焼土粒微量	S K - 10
4 10YR3 / 4 暗褐色粘質土	ローム粒少量、ローム塊(φ 1 cm)少量、炭化物微量	1 10YR3 / 3 暗褐色粘質土 ローム塊(φ 3 cm)少量、ローム粒少量、炭化物・ 焼土粒微量
5 10YR3 / 3 暗褐色粘質土	焼土粒少量、ローム塊(φ 1 cm)・ローム粒・ 炭化物微量	2 10YR3 / 4 暗褐色粘質土 ローム塊(φ 3 cm)・ローム粒少量、炭化物微量
6 10YR3 / 4 暗褐色粘質土	ローム粒多量、ローム塊(φ 3 cm)少量、燒土 粒微量	S K - 11
S K - 2		1 10YR3 / 4 暗褐色土 炭化物塊(φ 1 cm)・燒土粒・白色鮮石・褐色土塊 (φ 1 cm)微量
1 10YR3 / 3 暗褐色粘質土	ローム塊(φ 1 cm)・ローム粒・炭化物・燒 土粒微量	2 10YR3 / 4 暗褐色土 白色粘土塊(φ 3 cm)多量、燒土粒少量、炭化物微量
2 10YR3 / 3 暗褐色粘質土	ローム粒少量、ローム塊(φ 5 cm)・炭化物・ 燒土粒微量	S K - 12
3 10YR3 / 4 暗褐色粘質土	ローム塊(φ 5 cm)・燒土粒少量、炭化物帶狀 に少量、ローム粒微量	1 10YR3 / 3 暗褐色粘質土 しまり強・粘性中 ローム塊(φ 1 cm)・炭化 物・燒土粒少量、ローム粒微量
S K - 3		2 10YR3 / 3 暗褐色粘質土 ローム粒少量、燒土粒微量
1 10YR4 / 3 に、5-1 黃褐色土 白色鮮石少量、ローム粒微量	3 10YR3 / 3 暗褐色粘質土 ローム粒少量、燒土粒微量	
2 10YR3 / 3 晴褐色土 燥土塊(φ 4 cm)少量、白色鮮石微量	4 10YR3 / 3 暗褐色粘質土 ローム粒多量、ローム塊(φ 1 cm)・炭化物・燒 土粒微量	
3 10YR3 / 3 晴褐色土 ローム塊(φ 3 cm)少量		
4 10YR2 / 3 黑褐色粘質土 ローム塊(φ 3 センチ)多量、ローム粒少量	S K - 13	
S K - 4		1 10YR3 / 3 暗褐色粘質土 ローム塊(φ 3 cm)・ローム粒・炭化物・燒 土粒微量
1 10YR3 / 3 暗褐色粘質土	ローム塊(φ 1 cm)・ローム粒微量	S K - 14
2 10YR3 / 4 暗褐色粘質土	ローム塊(φ 3 cm)・ローム粒・燒土粒少量、 炭化物微量	1 10YR3 / 3 暗褐色粘質土 烧土粒少量、ローム粒・炭化物微量
S K - 5		2 10YR3 / 3 暗褐色粘質土 ローム塊(φ 1 cm)・ローム粒・炭化物・ 燒土粒微量
1 10YR2 / 3 黑褐色土 白色鮮石少量、ローム塊(φ 5 cm)・ローム粒・炭 化物・燒土粒微量	3 10YR3 / 3 暗褐色粘質土 ローム塊(φ 3 cm)・ローム粒・炭化物・燒 土粒微量	
2 10YR2 / 3 黑褐色土 ローム塊(φ 3 cm)・炭化物・燒土粒少量、ローム 粒・白色鮮石微量	4 10YR3 / 2 黑褐色粘質土 ローム塊(φ 5 cm)少量、ローム粒・炭化物・燒 土粒微量	
3 10YR3 / 3 晴褐色土 ローム粒多量、燒土粒微量	5 10YR3 / 2 黑褐色粘質土 ローム塊(φ 1 cm)・ローム粒少量、燒土粒微量	
4 10YR3 / 3 晴褐色土 ローム塊(φ 1 cm)・ローム粒少量	6 10YR3 / 3 暗褐色粘質土 ローム塊(φ 1 cm)・ローム粒多量、燒土粒少 量、燒土粒微量	
S K - 6		1 10YR3 / 3 暗褐色粘質土 烧土粒・炭化物・燒土粒微量
1 10YR3 / 3 暗褐色粘質土 烧土粒・A s - A'微量	2 10YR3 / 3 暗褐色粘質土 烧土粒微量	
2 10YR3 / 3 暗褐色粘質土 ローム粒・炭化物・燒土粒微量	3 10YR3 / 3 暗褐色粘質土 烧土粒帶狀に少量、燒土粒微量	
3 10YR3 / 3 暗褐色粘質土 ローム塊(φ 1 cm)少量、ローム塊(φ 5 cm)・ ローム粒・炭化物(φ 3 cm)・燒土粒・A s - A'微量	4 10YR3 / 3 暗褐色粘質土 ローム粒・燒土粒微量	
4 10YR3 / 3 晴褐色粘質土 ローム粒・燒土粒少量、ローム塊(φ 5 cm)・ 炭化物・(φ 1 cm)・A s - A'微量	5 10YR3 / 3 暗褐色粘質土 ローム塊(φ 1 cm)・ローム粒少量、ローム塊(φ 3 cm)・炭化物微量	
5 10YR3 / 3 晴褐色粘質土 烧土粒少量、ローム塊(φ 1 cm)・ローム粒・ A s - A'微量	6 10YR3 / 3 暗褐色粘質土 ローム塊(φ 1 cm)・ローム粒多量、燒土粒微量	
6 10YR3 / 4 暗褐色粘質土 ローム粒・燒土粒少量、ローム塊(φ 5 cm)・ 炭化物・白色粘土塊(φ 10 cm)微量		
S K - 7		S K - 15
1 10YR3 / 4 暗褐色粘質土 ローム塊(φ 3 cm)・ローム粒・炭化物・燒 土粒微量	1 10YR3 / 3 暗褐色粘質土 烧土粒・炭化物・燒土粒微量	
2 10YR3 / 3 暗褐色粘質土 ローム粒多量、ローム塊(φ 3 cm)少量、白 色鮮石微量	2 10YR3 / 3 暗褐色粘質土 ローム粒・炭化物・燒土粒微量	
3 10YR3 / 3 暗褐色粘質土 ローム粒少量、ローム塊(φ 3 cm)・燒土粒 微量	3 10YR3 / 3 暗褐色粘質土 烧土粒帶狀に少量、燒土粒微量	
4 10YR5 / 4 に、5-1 黃褐色粘質土 ローム粒多量、ローム塊(φ 3 cm)微量	4 10YR3 / 3 暗褐色粘質土 ローム粒・燒土粒微量	
S K - 8		5 10YR3 / 3 暗褐色粘質土 ローム塊(φ 1 cm)・ローム粒少量、炭化物・ 燒土粒微量
1 10YR3 / 3 暗褐色粘質土 ローム粒・炭化物・燒土粒微量	6 10YR3 / 3 暗褐色粘質土 ローム塊(φ 1 cm)・ローム粒多量、燒土粒微量	
2 10YR3 / 3 暗褐色粘質土 ローム塊(φ 1 cm)・ローム粒・炭化物・燒 土粒微量		
3 10YR3 / 3 暗褐色粘質土 ローム塊(φ 3 cm)多量、ローム粒微量	S K - 16	



SK-17

- 1 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒・白色鮮石少量、焼土粒微量
- 2 10YR 3/1 黒褐色土 ローム塊(φ 1 cm)多量、ローム粒・白色鮮石少量、焼土粒微量

SK-19

- 1 10YR 3/3 暗褐色土 焙化物・焼土粒少量、ローム塊(φ 5 cm・3 cm)・ローム微量
- 2 10YR 3/4 暗褐色粘質土 ローム塊(φ 3 cm)・ローム粒多量、焼土粒少量、炭化物微量
- 3 10YR 3/3 暗褐色粘質土 ローム粒少量、ローム塊(φ 1 cm)・炭化物・焼土粒微量
- 4 10YR 3/3 暗褐色粘質土 ローム粒多量、ローム塊(φ 3 cm)少量、焼土粒微量

SK-20

- 1 10YR 3/3 暗褐色粘質土 ローム粒・炭化物・焼土粒微量
- 2 10YR 3/3 暗褐色粘質土 烧土粒少量、ローム塊(φ 1 cm)・ローム粒微量
- 3 10YR 3/3 暗褐色粘質土 ローム粒・炭化物微量、ローム塊(φ 5 cm・3 cm)・焼土粒微量

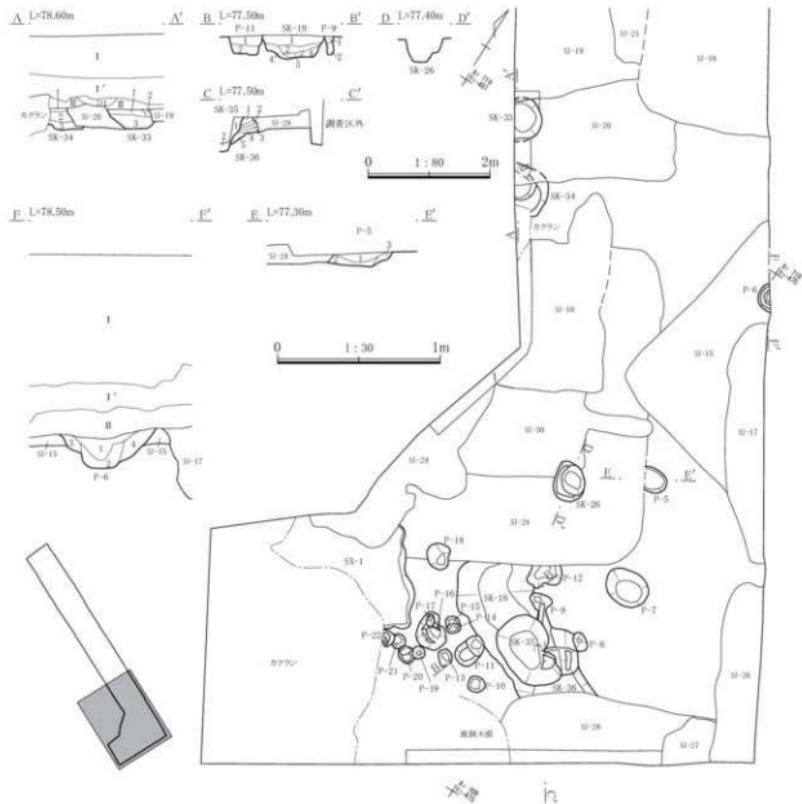
SK-21

- 1 10YR 3/4 暗褐色粘質土 ローム塊(φ 3 cm)・炭化物・燒土粒微量
- 2 10YR 3/4 暗褐色粘質土 ローム塊(φ 3 cm)少量、ローム粒・炭化物・焼土粒微量
- 3 10YR 3/3 暗褐色粘質土 ローム塊(φ 3 cm)・ローム粒・焼土粒少量、炭化物微量
- 4 10YR 2/3 黑褐色粘質土 ローム塊(φ 3 cm)・ローム粒・炭化物微量
- 5 10YR 2/3 黑褐色粘質土 ローム塊(φ 3 cm)多量、ローム粒少量、燒土粒微量

SK-22

- 1 10YR 3/4 暗褐色土 ローム粒少量、焼土粒・白色鮮石微量
- 2 10YR 3/3 暗褐色粘質土 ローム粒多量、ローム塊(φ 1 cm)・焼土粒微量
- 3 10YR 3/3 暗褐色粘質土 ローム塊(φ 3 cm)多量、ローム粒少量、ローム塊(φ 5 cm)・炭化物・焼土粒微量
- 4 10YR 3/3 暗褐色粘質土 烧土粒少量、ローム塊(φ 1 cm)・ローム粒・炭化物・白色鮮石微量
- 5 10YR 3/4 暗褐色粘質土 ローム塊(φ 3 cm)・ローム粒・焼土粒少量、炭化物・白色鮮石微量
- 6 10YR 4/4 棕色粘質土 ローム粒多量、ローム塊(φ 3 cm)・焼土粒微量

第25図 調査区中央部土坑・ピット平・断面図



SK-22

7 10W3 / 2 黒褐色粘質土 ローム粒多量、ローム塊(ϕ 3cm)・块土粒・白色軽石少量、炭化物微量

8 10W3 / 3 暗褐色粘質土 ローム粒多量、ローム塊(ϕ 5cm)・炭化物・块土粒微量

SK-23

1 10W3 / 2 黒褐色粘質土 ローム粒少量、ローム塊(ϕ 1cm)・炭化物・白色軽石微量

2 10W3 / 3 暗褐色粘質土 ローム粒多量、炭化物微量

3 10W3 / 3 暗褐色粘質土 ローム塊(ϕ 1cm)・ローム粒・炭化物・块土粒・白色軽石微量

4 10W3 / 4 暗褐色粘質土 ローム粒多量

5 10W3 / 2 黑褐色粘質土 塊土粒少量、ローム粒・炭化物(ϕ 1cm)・白色軽石微量

6 10W4 / 4 開色粘質土 ローム粒・10W5 / 4 粘土塊(ϕ 3cm)少量

7 10W3 / 3 暗褐色粘質土 白色軽石少量、灰白色粘土粒・炭化物(ϕ 1cm)・块土粒微量

8 10W3 / 4 暗褐色粘質土 しまり強・粘性強・灰白色粘土粒少量、炭化物(ϕ 1cm)・块土粒・白色軽石微量

SK-24

1 10W3 / 4 暗褐色土 ローム塊(ϕ 3cm)・ローム粒・块土粒微量

2 10W4 / 4 開色土 ローム粒少量、炭化物微量

3 10W3 / 3 暗褐色土 ローム粒少量、ローム塊(ϕ 1cm)・炭化物・块土粒微量

4 10W3 / 4 暗褐色粘質土 ローム粒多量、块土粒微量

5 10W3 / 4 暗褐色粘質土 ローム粒(ϕ 3cm)・ローム粒少量 SK-25

1 10W3 / 4 暗褐色粘質土 ローム粒少量、ローム塊(ϕ 3cm)・块土粒微量

2 10W3 / 4 暗褐色粘質土 ローム粒多量、炭化物少量、ローム塊(ϕ 1cm)微量

3 10W3 / 3 暗褐色粘質土 ローム塊(ϕ 3cm)・块土粒少量、ローム粒・炭化物微量

SK-25

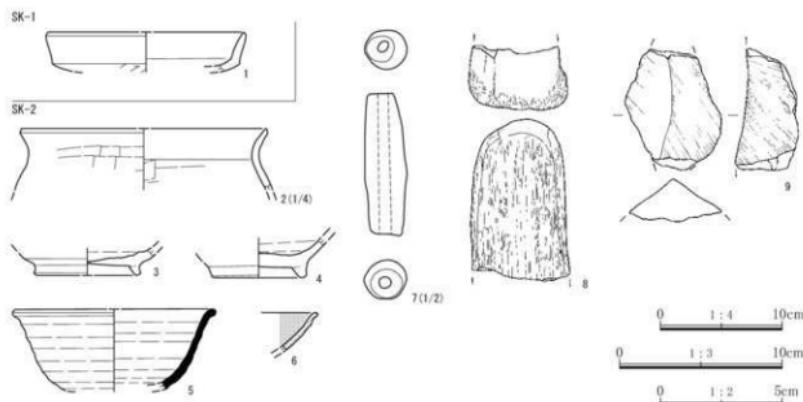
1 10W3 / 4 暗褐色粘質土 ローム粒少量、ローム塊(ϕ 3cm)・块土粒微量

2 10W3 / 4 暗褐色粘質土 ローム粒多量、炭化物少量、ローム塊(ϕ 1cm)微量

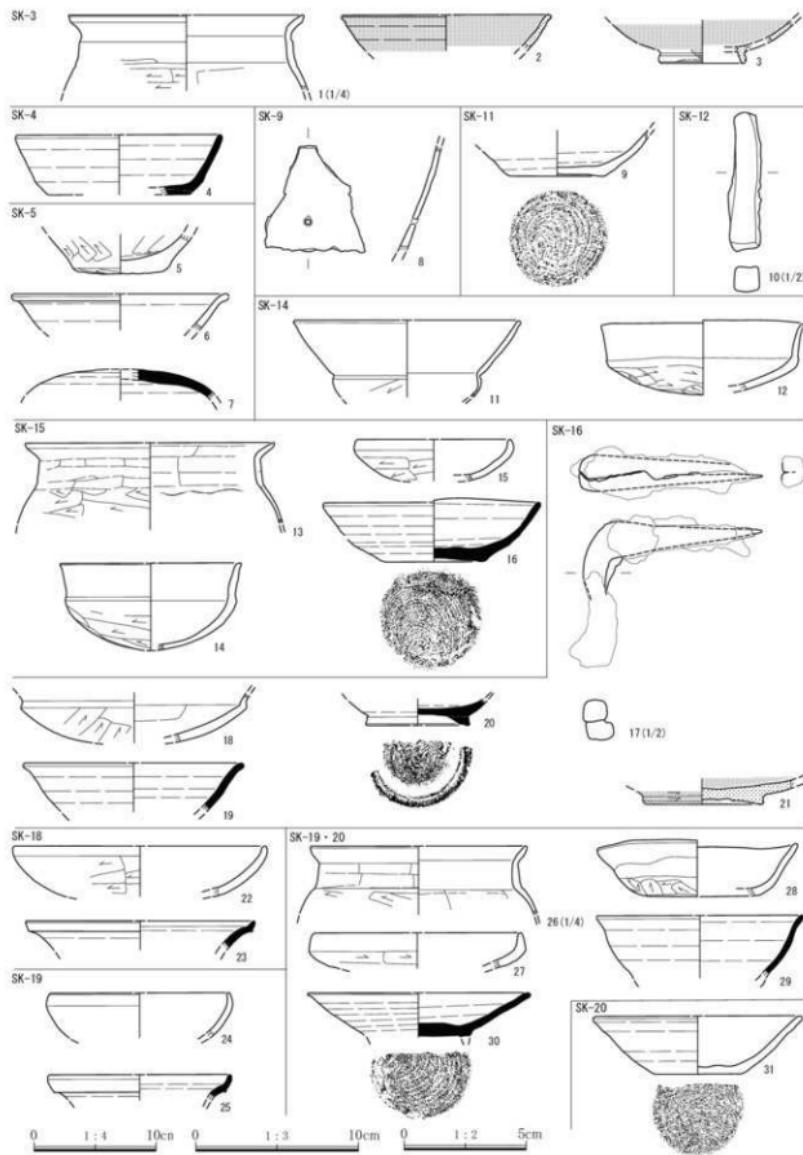
3 10W3 / 3 暗褐色粘質土 ローム塊(ϕ 3cm)・块土粒少量、ローム粒・炭化物微量

第26図 調査区南部土坑・性格不明遭構・ビット平・断面図

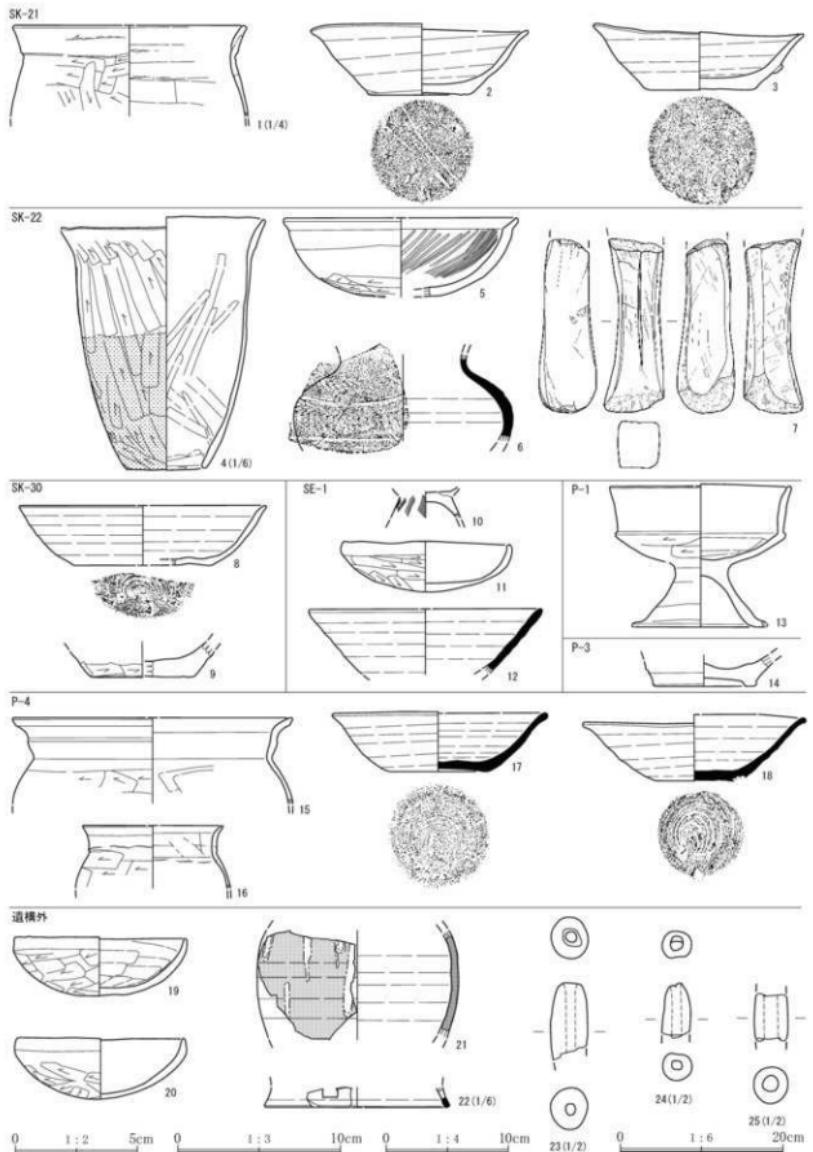
SK-27	1 10YR 3 / 4 暗褐色粘質土 ローム粒少量、炭化物・焼土粒微量 2 10YR 3 / 3 暗褐色粘質土 しまり強・粘性強 ローム塊(φ 3 cm)少 量、ローム粒・焼土粒微量	SK-35	1 10YR 3 / 4 暗褐色土 白色軽石少量、焼土粒微量
SK-28	1 10YR 3 / 3 暗褐色土 2 10YR 3 / 3 暗褐色土 ローム塊(φ 3 cm)多量、焼土粒少量、炭化物微量 3 10YR 3 / 3 暗褐色粘質土 ローム塊(φ 3 cm)・ローム粒・焼土粒少量、 炭化物・白色粘土(φ 1 cm)微量	SK-36	1 10YR 3 / 4 暗褐色土 ローム粒少量 2 10YR 2 / 3 黒褐色土 ローム塊(φ 1 cm)・ローム粒多量 3 10YR 3 / 1 黒褐色土 ローム粒微量 4 10YR 3 / 3 暗褐色土 ローム粒微量 5 10YR 2 / 2 黒褐色土 ローム塊(φ 3 cm)・ローム粒多量
SK-31	1 10YR 3 / 4 暗褐色土 白色軽石少量、ローム塊(φ 3 cm)・ローム粒・炭 化物・焼土粒微量 2 10YR 3 / 4 暗褐色土 ローム塊(φ 5 cm)・ローム粒・白色軽石少量、燒 土粒微量	SE-1	1 10YR 3 / 3 暗褐色粘質土 ローム粒・炭化物・焼土粒少量、ローム塊(φ 5 cm)微量 2 10YR 3 / 3 暗褐色粘質土 ローム塊(φ 1 cm)・ローム粒・白色軽石微量 3 10YR 3 / 3 暗褐色粘質土 ローム塊(φ 5 cm)・ローム粒・焼土粒微量 4 10YR 3 / 4 暗褐色粘質土 ローム粒少量、ローム塊(φ 3 cm)・焼土粒微量
SK-32	1 10YR 4 / 3 にぶい黄褐色土 白色軽石多量、ローム粒少量、焼土粒微量 2 10YR 3 / 3 暗褐色土 白色軽石多量、ローム塊(φ 1 cm)少量、ローム粒・ 焼土粒微量 3 10YR 3 / 2 黑褐色土 ローム粒・白色軽石少量、ローム塊(φ 1 cm)・炭 化物・焼土粒微量 4 10YR 3 / 1 黑褐色粘質土 ローム塊(φ 3 cm)・ローム粒多量、白色軽石 少量 5 10YR 3 / 1 黑褐色粘質土 ローム塊(φ 1 cm)多量、ローム粒・白色軽石 少量	ピット5	1 10YR 3 / 2 黑褐色土 ローム塊(φ 1 cm)少量、ローム粒・燒土粒微量 2 10YR 4 / 4 黄褐色土 ローム塊(φ 1 cm)多量、ローム粒少量 3 10YR 4 / 6 黄褐色土 ローム塊(φ 3 cm)多量
SK-33	1 10YR 3 / 3 暗褐色土 ローム塊(φ 1 cm)・ローム粒少量、焼土粒微量 2 10YR 5 / 4 にぶい黄褐色土 ローム塊(φ 3 cm)・ローム粒多量、根根か 3 10YR 3 / 3 暗褐色土 ローム塊(φ 1 cm)・ローム粒多量	ピット6	1 7.5YR 3 / 2 黑褐色粘質土 ローム粒少量 2 7.5YR 3 / 1 黑褐色粘質土 ローム塊(φ 1 cm)多量、ローム粒微量 3 7.5YR 3 / 3 暗褐色土 ローム塊(φ 1 cm)少量 4 7.5YR 3 / 2 黑褐色土 ローム粒少量
SK-34	1 10YR 4 / 2 灰黃褐色土 ローム多量 2 10YR 4 / 3 にぶい黄褐色土 ローム塊(φ 1 cm)・ローム粒多量、燒土粒 微量 3 10YR 4 / 3 にぶい黄褐色土 ローム塊(φ 3 cm)・ローム粒多量、燒土粒 微量	ピット9	1 10YR 3 / 3 暗褐色土 ローム塊(φ 1 cm)・ローム粒・白色軽石少量 2 10YR 3 / 2 黑褐色土 ローム塊(φ 1 cm)・ローム粒少量
SK-1		ピット11	1 10YR 3 / 3 暗褐色土 ローム塊(φ 1 cm)・ローム粒・白色軽石多量、炭化物・ 燒土粒微量 2 10YR 3 / 1 黑褐色粘質土 ローム塊(φ 5 cm)多量、ローム粒少量



第27図 1号・2号土坑出土遺物



第28図 3～5号・9号・11号・14～16号・18～20号土坑出土遺物



第29図 21号・22号・30号土坑、1号井戸跡、ピット1・3・4、遺構外出土遺物

第4節　まとめ

今回の綿貫・台新田遺跡の発掘調査では、堅穴住居跡33軒、土坑36基、井戸跡1基、性格不明遺構1基、ビックト22個が確認された。出土遺物を見ると、5世紀から11世紀までの長い期間にわたる遺物が見られるが、その中で8世紀代の遺物が少ない傾向が見られた。

検出された遺構に直接関わるものではないが、遺構内覆土からS字状口縁台付甕の破片が出土している。周辺の遺跡では古墳時代前期の石田川式期の堅穴住居跡が確認されていることから、今回の調査では遺構は確認されなかつたが当該期の住居跡があったと考えられる。また、遺構内覆土からは縄文土器片、打製石斧、剥片も出土している。古墳時代以降の集落が営まれる前に、縄文時代の遺構が存在していたと思われる。

今回発掘調査を行なった綿貫・台新田遺跡の特徴は、発掘調査面積は狭いが、長期間にわたる多数の堅穴住居跡が検出されたことである。検出された堅穴住居跡の時期別の分布状況を見ると、時期ごとに偏って分布する様相は見られず、どの時期においても調査区内に広く分布する傾向が見られる。検出された堅穴住居跡の密度と時期別の堅穴住居跡の分布様相、高崎台地の東縁部に位置し井野川低地帯を臨む立地条件、縄釉陶器・灰釉陶器・瓦・円面鏡といった一般集落ではあまり出土しない遺物から、綿貫・台新田遺跡は拠点集落の1つであった可能性がある。今後、周辺地域で発掘調査事例が増えることで明らかになっていくものと思われる。

土坑・井戸跡・性格不明遺構観察表

遺構番号	出土位置	座標	縦断面	平面形	長軸方位	法 庫 () : 準定 () : 留存			備考	
						長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)		
S K 1	調査区北部	X-738~740 Y-492~496	LIV	不正円形	—	1.38 [0.62]	0.23	4・5号住、14号土坑より新 27回1出土		
S K 2	調査区北部	X-739~740 Y-488~489	LIV	不正円形	[1.21]	1.09	0.33	7号住、7・8号土坑より新 27回2~9出土		
S K 3	調査区北部	X-735~736 Y-485~487	7号住上面	不正確円形	N78° E [0.74]	1.06	0.34	7号住より新 28回1~3出土		
S K 4	調査区北部	X-736~738 Y-490~492	LIV	不正確円形	N28° W [0.67]	0.93	0.25	4号住、6号土坑より古 11号住より新 28回4出土		
S K 5	調査区中央部	X-727~730 Y-489~482	LIV	不正確円形	N39° E [0.97]	1.75	0.26	33号住より古 26回8~10出土		
S K 6	調査区北部	X-736~738 Y-496~497	LIV	不正確円形	N80° W [1.67]	[1.01]	0.63	4・11号住、4号土坑より新 28回5出土		
S K 7	調査区北部	X-738~739 Y-487~489	LIV	円形	N35° W [1.16]	0.74	0.24	2・27号土坑より古 28回6出土		
S K 8	調査区北部	X-736~739 Y-486~488	7号住上面	不正確円形	—	1.18 [0.84]	0.29	2号土坑より古 3号住より新 28回7出土		
S K 9	調査区北部	X-736~737 Y-486~487	7号住上面	円形	N19° E [0.63]	0.35	0.05	7号住より古 28回8出土		
S K 10	調査区北部	X-736~738 Y-487~489	7号住底面	圓錐長方形	N22° W [1.29]	0.98	0.14	7号住の下土坑と混われる 28回9出土		
S K 11	調査区北部	X-735~736 Y-487~489	7号住底面	円形	N25° W [1.21]	1.04	0.16	2号住の下土坑と混われる 28回9出土		
S K 12	調査区北部	X-736~737 Y-488~489	7号住上面	円形	—	0.44	0.39	5号住 2号住、10号土坑より新 28回10出土		
S K 13	調査区北部	X-735~736 Y-486~488	7号住上面	不正確円形	N69° E [0.63]	0.50	0.12	7号住より新 28回11出土		
S K 14	調査区北部	X-739~741 Y-490~492	LIV	円形	N70° E [2.22]	0.85	0.33	1号土坑より古 5号住より新 28回11~12出土		
S K 15	調査区北部	X-732~733 Y-487~488	10号住上面	不正確円形	—	0.98	0.38	10号住より新 28回13~16出土		
S K 16	調査区中央部	X-723~725 Y-481~482	22号住上面	不正確円形	—	0.92	0.82	22号住より古 28回17~21出土		
S K 17	調査区中央部	X-725~727 Y-484~482	25号住上面	円形	N67° E [0.96]	0.81	0.16	25~33号住より新 28回18出土		
S K 18	調査区南部	X-710~713 Y-474~477	LIV	圓錐長方形	N56° E [1.06]	1.30	0.39	24号住、36号住より古 28回22~23出土		
S K 19	調査区北部	X-733~736 Y-488~489	8号住上面	不正確円形	—	1.26 [1.27]	0.34	20~25号土坑より古 8号住、25号住、1号井戸跡 より古 28回24~25出土		
S K 20	調査区北部	X-733~735 Y-487~489	LIV	不正確円形	—	1.21	1.13	0.17	25号住より古 10号住、19号土坑より新 28回26~31出土	
S K 21	調査区北部	X-731~733 Y-487~489	8号住上面	不正確円形	—	1.14 [0.74]	0.45	8号住より新 29回1~3出土		
S K 22	調査区北部	X-726~732 Y-486~488	LIV	円形	N58° E [1.14]	1.66	0.41	30号土坑より古 8~10~12号住より新 29回4~7出土		
S K 23	調査区中央部	X-728~730 Y-485~487	12号住上面	圓錐丸形	—	1.53 [0.92]	0.45	9~10号住、24号土坑より新 29回5出土		
S K 24	調査区中央部	X-729~731 Y-481~486	12号住上面	圓錐丸形	N36° E [1.37]	0.83	0.32	10号住、23号住より古 9号住より新 29回6出土		
S K 25	調査区北部	X-734~736 Y-488~489	LIV	円形	—	0.67	0.57	2号住、19~20号土坑より新 29回7出土		
S K 26	調査区南端	X-714~715 Y-475~477	24号住上面	不正確円形	—	0.67	0.62	24~30号住より新 29回8出土		
S K 27	調査区北部	X-729~740 Y-488~489	2号住底面	圓錐長方形	N58° E [1.05]	1.06	0.24	2号住より古 7号土坑より新 29回9出土		
S K 28	調査区中央部	X-728~729 Y-483~484	LIV	圓錐丸形	N70° E [0.87]	0.69	0.11	13号住、29号土坑より古 29回10出土		
S K 29	調査区中央部	X-728~730 Y-482~484	LIV	圓錐丸形	N59° E [1.45]	1.65	0.67	28号住より古 29回11出土		
S K 30	調査区北端	X-731~732 Y-486~487	12号住上面	不正確円形	—	0.74	0.60	0.31	9~10~12号住、22号土坑より新 29回12出土	
S K 31	調査区中央部	X-726~729 Y-482~484	LIV	圓錐長方形	N50° E [1.95]	[1.12]	0.16	32号住、32号土坑より古 29回13出土		
S K 32	調査区中央部	X-726~728 Y-481~483	31号住上面	圓錐丸形	N76° E [1.75]	[1.29]	0.33	33号住、17~31号住より新 29回14出土		
S K 33	調査区南端	X-718~720 Y-479~481	10号住上面	円形	—	0.77	0.45	19号住より古 20号住より新 29回15出土		
S K 34	調査区南端	X-717~719 Y-478~480	LIV	不正確円形	—	0.74	0.69	0.21	20号住より古 29回16出土	
S K 35	調査区南端	X-711~712 Y-474~476	LIV	不正確円形	N56° W [1.17]	6.82	0.41	18~26号土坑より新 29回17出土		
S K 36	調査区南端	X-711~712 Y-474~476	LIV	不明	—	1.23	0.16	27号住、35号土坑より古 29回18出土		
S E 1	調査区南端	X-733~735 Y-489~490	19号土坑底	圓錐丸形	N60° W [0.88]	[0.48]	0.83	19号土坑より古 29回19~12出土 深さから井戸跡		
S X 1	調査区南端	X-710~712 Y-477~480	LIV	不正確長方形	—	[2.32]	1.71	0.07	29号住より古 29回20出土	

ピット観察表

測定番号	出土位置	発見	地 () : 推定 () : 深さ ()			備考
			長径 (cm)	短径 (cm)	厚さ (cm)	
ピット1	調査区北端	X=741~742 Y=89~492	29	25	—	3号住居跡に伴うピットの可能性がある。29回13出土
ピット2	調査区北端	X=723~734 Y=85~486	28	24	80	10号住居跡・ピット2より古
ピット3	調査区北端	X=734~746 Y=88~486	42	41	27	10号住居跡・ピット2より古 29回14出土
ピット4	調査区北端	X=734~735 Y=88~486	56	41	32	10号住居跡 29回15~18出土
ピット5	調査区南端	X=714~716 Y=87~476	[47]	38	8	24号住居跡
ピット6	調査区南端	X=718~719 Y=87~476	47	[20]	12	15号住居跡
ピット7	調査区南端	X=713~714 Y=87~475	72	57	49	18号住居跡
ピット8	調査区南端	X=712~713 Y=87~475	32	20	28	18号住居跡
ピット9	調査区南端	X=712~713 Y=87~476	39	27	33	18号住居跡
ピット10	調査区南端	X=710~711 Y=87~476	28	26	20	18号住居跡
ピット11	調査区南端	X=710~712 Y=87~476	55	37	37	18号住居より新
ピット12	調査区南端	X=712~713 Y=87~476	[63]	53	7	18号住居より新
ピット13	調査区南端	X=710~711 Y=87~476	27	22	25	18号住居より新
ピット14	調査区南端	X=711~712 Y=87~476	23	15	21	ピット13より新
ピット15	調査区南端	X=711~712 Y=87~477	[12]	23	14	ピット13より古
ピット16	調査区南端	X=710~712 Y=87~477	64	49	61	ピット13より新
ピット17	調査区南端	X=711~712 Y=87~477	[21]	13	39	ピット13より古
ピット18	調査区南端	X=711~713 Y=87~476	43	37	37	24号住居跡
ピット19	調査区南端	X=710~711 Y=87~477	22	21	34	ピット20より新
ピット20	調査区南端	X=710~711 Y=87~477	29	26	22	ピット19より古
ピット21	調査区南端	X=710~711 Y=87~476	[21]	13	35	ピット20+21より古
ピット22	調査区南端	X=710~711 Y=87~478	[21]	25	36	1号性格不確鑑より古 ピット21より新

出土土器観察表

番号	出土位置	種別・特徴	出典 () : 地質 () : 在所 ()			出土	焼成	色調	器形、文・模様、又様等の特徴	遺存状況	
			DF()	GP()	RC()						
3回1 S 1 床	土師器 瓢	—	15.9	—	[14.2]	砂粒含	良好	褐色	内面ナデ ハラタズリ 内面ナデ ハラナ	口縁へ網張片	
3回2 S 1 床	土師器 瓢	—	(15.7)	—	[7.9]	砂粒含	良好	褐色	内面ナデ ハラタズリ 内面ナデ ハラナ	口縁へ網張片	
3回3 S 1 床	土師器 瓢	—	(14.29)	—	[2.7]	普通	良好	褐色	内面ナデ ハラタズリ 内面ナデ ハラナ	口縁へ網張片	
3回4 S 1 床	土師器 瓢	—	—	—	[1.4]	普通	良好	褐色	内面ナデ ハラタズリ 内面ナデ ハラナ	直部	
4回1 S 1.3 カマド	土師器 瓢	—	13.6	—	[8.5]	小砂含	良好	褐色	内面ナデ ハラタズリ 内面ナデ ハラナ	口縁へ網張片	
4回2 S 1.3 底面	土師器 瓢	—	19.3	—	[5.6]	砂粒含	良好	褐色	内面ナデ ハラタズリ 内面ナデ ハラナ	口縁へ網張片	
4回3 S 1.3 リム	土師器 瓶	—	(15.4)	—	[4.9]	普通	良好	褐色	外底 帽状高く膨脹し不明 内底 帽状多く膨脹し不明	口縁へ網張片	
4回4 S 1.3 リム	土師器 瓶	—	(11.7)	—	[4.6]	普通	良好	褐色	明赤褐色	口縁へ網張片	
4回5 S 1.3 カマド	土師器 瓢	—	13.0	—	[4.6]	普通	良好	褐色	内面ナデ ハラタズリ 内面ナデ ハラナ	口縁へ網張片	
4回6 S 1.3 底面	土師器 瓶 S字裏	—	[2.3]	普通	良好	—	—	褐色	内面ナデ ハラタズリ	口縁網張片	
5回1 S 1 床	土師器 小型瓶	—	(11.09)	—	[5.5]	普通	良好	—	—	口縁へ網張片	
5回2 S 1.4+5 床	土師器 瓢	—	—	3.0	砂粒含	良好	—	褐色	内面ナデ ハラタズリ 内面ナデ ハラナ	口縁へ網張片	
5回3 S 1.4+5 床	土師器 瓶	—	(13.6)	—	[4.5]	普通	良好	—	褐色	内面ナデ ハラタズリ 内面ナデ ハラナ	口縁へ網張片
5回4 S 1.4+5 床	土師器 瓶	—	(10.6)	—	[3.9]	普通	良好	—	褐色	内面ナデ ハラタズリ 内面ナデ ハラナ	口縁へ網張片
5回5 S 1.4+5 床	土師器 瓶	—	(12.8)	—	[3.0]	普通	良好	—	褐色	内面ナデ ハラタズリ 内面ナデ ハラナ	口縁へ網張片
5回6 S 1.4 底面	土師器 瓶	—	—	—	[18.6]	普通	良好	褐色	内面ナデ ハラタズリ	網張片	
5回7 S 1.4 底面	土師器 瓶	—	(15.43)	—	[5.5]	普通	良好	灰白色	内面ロコロ成形	口縁へ網張片	
5回8 S 1.4 底面	土師器 瓶	—	(15.6)	—	[5.6]	普通	良好	暗赤褐色	内面ロコロ成形	口縁へ網張片	
5回9 S 1.4 底面	土師器 瓶	—	2.8	—	[2.6]	普通	良好	—	褐色	内面ロコロ成形 脱胎系繩刺	網張片へ近接
6回1 S 1.5+1 床	土師器 瓶	—	(19.29)	—	[13.2]	小砂含	良好	—	褐色	内面ナデ ハラタズリ ハラタズリ	口縁へ網張片
6回2 S 1.5 床	土師器 瓶	—	—	—	[5.0]	普通	良好	—	褐色	内面ナデ ハラタズリ	口縁へ網張片
6回3 S 1.5 床	土師器 瓶	—	(12.9)	—	[5.0]	普通	良好	明赤褐色	内面ナデ ハラタズリ 内面ナデ ハラナ	口縁へ網張片	
6回4 S 1.5 床	土師器 瓶	—	(13.0)	—	[3.7]	普通	良好	明赤褐色	内面ナデ ハラタズリ 内面ナデ ハラナ	口縁へ網張片	
7回1 S 1.5 床	土師器 瓶	—	(14.22)	—	[5.2]	普通	良好	明赤褐色	内面ナデ ハラタズリ 内面ナデ ハラナ	口縁へ網張片	
7回2 S 1.6 床	帆船形 高台付杯	—	(8.2)	[1.9]	砂粒含	褐色化焰燒成	—	褐色	内面ロコロ成形 脱胎系繩刺	直部	
7回3 S 1.6+1 床	帆船形 高台付杯	—	(19.8)	—	[2.1]	普通	褐色化焰燒成	—	褐色	内面ナデ ハラタズリ 内面ナデ ハラナ	口縁網張片
7回4 S 1.11 床	土師器 瓶	—	(7.3)	—	—	普通	良好	褐色	内面ロコロ成形	口縁へ網張片	
7回5 S 1.11 床	土師器 斧	—	(12.2)	—	[3.7]	普通	良好	褐色	内面ロコロ成形	口縁へ網張片	
7回6 S 1.11 床	土師器 斧	—	(11.39)	—	[2.8]	普通	良好	褐色	内面ロコロ成形	口縁へ網張片	
7回7 S 1.11 床	土師器 瓶	—	(16.2)	—	[6.7]	砂粒含	良好	褐色	内面ナデ ハラタズリ	口縁へ網張片	
7回8 S 1.11 床	土師器 瓶	—	(13.2)	—	[4.5]	砂粒含	良好	褐色	内面ナデ ハラタズリ	口縁へ網張片	
8回1 S 1 床	土師器 瓶	—	(19.6)	5.7	[29.2]	普通	良好	褐色	内面ナデ ハラタズリ ハラタズリ	50%	
8回2 S 1.7 床	土師器 瓶	—	(16.8)	—	[5.1]	普通	良好	—	褐色	内面ナデ ハラタズリ	口縁網張片
8回3 S 1.7 床	土師器 瓶	—	(17.6)	—	[3.1]	砂粒含	良好	褐色	内面ナデ ハラタズリ	口縁網張片	
8回4 S 1.7 床	土師器 瓶	—	(12.2)	—	[4.2]	砂粒含	良好	褐色	内面ナデ ハラタズリ	口縁網張片	
8回5 S 1.7 床	土師器 瓶	—	(10.4)	6.0	[2.9]	普通	良好	明赤褐色	内面ナデ ハラタズリ	口縁網張片	
8回6 S 1.7 床	帆船形 高台付杯	—	(5.8)	—	[3.6]	砂粒含	褐色化焰燒成	褐色	内面ロコロ成形 脱胎系繩刺	口縁へ網張片	
8回7 S 1.7 床	帆船形 高台付杯	—	(6.7)	—	[3.2]	砂粒含	褐色化焰燒成	褐色	内面ロコロ成形	口縁へ網張片	
8回8 S 1.7 床	帆船形 高台付杯	—	(12.6)	6.2	2.9	普通	良好	褐色	内面ロコロ成形	40%	
8回9 S 1.7 床	帆船形 高台付杯	—	(14.2)	—	[4.5]	普通	良好	褐色	内面ロコロ成形	口縁へ網張片	
8回10 S 1.7 床	帆船形 高台付杯	—	(11.6)	—	[3.4]	普通	良好	褐色	内面ロコロ成形	口縁へ網張片	
8回11 S 1.7 床	帆船形 高台付杯	—	(9.4)	—	[1.7]	普通	良好	褐色	内面ロコロ成形 脱胎系繩刺	口縁へ網張片	
8回12 S 1.7 床	帆船形 高台付杯	—	(6.2)	—	[1.9]	砂粒含	良好	褐色	内面ロコロ成形 脱胎系繩刺	口縁へ網張片	
8回13 S 1.7+5.83床	帆船形 瓢	—	—	[18.2]	普通	良好	青褐色	内面ロコロ成形	網張片		
9回1 S 1 床	帆船形 瓢	—	6.0	—	[3.2]	砂粒含	褐色化焰燒成	褐色	内面ロコロ成形	網張片	
10回1 S 1.10 床	土師器 瓶	—	(3.6)	[29.6]	普通	良好	—	褐色	内面ナデ ハラタズリ ハラタズリ	網張片	
10回2 S 1.10 床	土師器 瓶	—	(16.23)	—	[9.8]	砂粒含	良好	褐色	内面ナデ ハラタズリ	口縁へ網張片	
10回3 S 1.10 床	土師器 瓶	—	(17.8)	—	[7.4]	普通	良好	—	褐色	内面ナデ ハラタズリ	口縁へ網張片

出土器物考略

出土器物考

出土土器観察表

番号	出土位置	種別・形種	法 長(cm)	法 幅(cm)	法 厚さ(cm)	重 量(g)	粘土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	庫存状況
28E26	S K19+29 棚土	土器部 壁	(17.7)	—	[5.7]	普通	良好	にごい赤褐色	外面:ナデ ヘラグリ ハラケヌリ 内面:ナデ	口縁部片	
28E27	S K19+29 棚土	土器部 手	(12.8)	—	[2.2]	普通	良好	褐色	内面:ナデ ヘラグリ ハラケヌリ 内面:ナデ	口縁部片	
28E28	S K19+29 棚土	土器部 手	12.2	6.8	3.5	普通	良好	にごい赤褐色	外面:ナデ ヘラグリ ハラケヌリ 内面:ナデ	口縁部片	
28E29	S K19+29 棚土	土器部 手	(12.7)	—	[3.9]	普通	良好	褐色	内面:ロカラ成形 内面:ロカラ成形	口縁部片	
28E30	S K19+29 棚土	土器部 高台付環	13.5	—	[2.7]	普通	良好	褐色	内面:ロカラ成形 回転赤目	50%	
28E31	S K20 棚土	土器部 手	(12.6)	5.2	3.6	普通	焼成端破壊	褐色	外面:ロカラ成形 回転赤目 内面:ナデ	50%	
29E01	S K21 棚土	土器部 壁	(18.8)	—	[2.5]	普通	良好	黄褐色	外面:ナデ ヘラグリ 内面:ナデ	口縁部片	
29E02	S K21 棚土	土器部 壁	13.3	6.1	4.4	砂粒含	焼成端破壊	褐色	外面:回転 ナラタナ 回転赤目	90%	
29E03	S K21 棚土	土器部 壁	12.8	6.3	4.1	砂粒含	焼成端破壊	褐色	外面:ロカラ成形 回転赤目	完存	
29E04	S K22 棚土	土器部 壁	24.6	9.6	31.3	普通	良好	にごい赤褐色	外面:ナデ ヘラグリ ハラケヌリ 下手部は一次焼成により赤目化を呈す	完存	
29E05	S K22 棚土	土器部 手	(14.2)	—	4.9	普通	良好	にごい赤褐色	外面:ナデ ヘラグリ ハラケヌリ	口縁部片	
29E06	S K22 棚土	土器部 小型手	—	—	[5.4]	普通	良好	明赤灰色	外面:ロカラ成形 種底工:火耕窓 疣 疣難	網縫部	
29E08	S K22 棚土	土器部 手	(15.1)	6.0	3.7	普通	良好	赤褐色	外面:ロカラ成形 回転赤目	口縁部片	
29E09	S K32 棚土	土器部 壁	—	[0.8]	[2.9]	砂粒含	良好	暗赤褐色	外面:ナデ ヘラグリ 内面:ナデ	近距離	
29E10	S E. 棚土	古式土器部 S字彫	—	—	[2.1]	普通	良好	にごい褐色	外面:ハラカギ	直部片	
29E11	S E. 棚土	土器部 手	10.2	—	3.2	普通	良好	褐色	外面:ナデ ヘラグリ 内面:ナデ	完存	
29E12	S E. 棚土	土器部 手	(14.3)	—	[4.0]	普通	良好	灰褐色	外面:ロカラ成形 内面:ロカラ成形	口縁部・側部片	
29E13	P11 画面	土器部 脚付	(11.3)	8.3	8.8	普通	良好	褐色	外面:ナデ ヘラグリ 内面:ナデ ヘラグリ	60%	
29E14	P13 棚土	土器部 高台付環	—	6.0	[1.9]	砂粒含	焼成端破壊	褐色	外面:ロカラ成形 ナデ後縁部有鉢脚	直部片	
29E15	P14 棚土	土器部 壁	(22.8)	—	[7.1]	砂粒含	良好	明赤褐色	外面:ロカラ成形 ナデ ヘラグリ	口縫隙片	
29E16	P14 棚土	土器部 壁	(11.4)	—	[5.2]	砂粒含	良好	褐色	外面:ナデ ヘラグリ ハラケヌリ	ロ縫隙片	
29E17	P14 棚土	土器部 壁	13.0	6.0	3.2	普通	良好	明赤灰色	外面:ロカラ成形 回転赤目	90%	
29E18	P14+ 棚土	土器部 壁	13.5	5.2	4.1	普通	良好	明赤灰色	外面:ロカラ成形	70%	
29E19	遺構外	土器部 手	—	10.5	—	2.7	普通	良好	褐色	外面:ナデ ヘラグリ 内面:ナデ	75%
29E20	遺構外	土器部 手	—	10.2	—	3.8	普通	良好	褐色	外面:ナデ 肩付	完存
29E21	遺構外	土器部 壁	—	—	[6.6]	普通	良好	灰褐色	外面:ロカラ成形 簇脚 烧成時自然輪ひ寄	網縫部	
29E22	遺構外	土器部 円窓含S	—	(22.2)	[2.5]	普通	良好	褐色	外面:ロカラ成形 簇脚切り取り	口縫隙	

土製品観察表

番号	出土位置	種別	法 長(cm)	法 幅(cm)	法 厚さ(cm)	重 量(g)	粘土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	庫存状況
18E04	S I 29 棚土	瓦	[31.5]	[13.6]	3.2	[186.2]	砂粒含	普通	灰褐色	外面:有目 内面:目	体部片
18E05	S I 29 棚土	瓦	[10.0]	[12.2]	1.9	[251.2]	砂粒含	普通	灰褐色	外面:有目 内面:目	体部片
27E07	S K 2 棚土	土壁	5.8	1.7	1.6	15.6	普通	良好	灰褐色	手縫合:正面はヘラグリ	完存
29E06	遺構外	土壁	[3.2]	1.5	1.7	[6.9]	普通	良好	黄褐色	手縫合:正面はナデ整形。縫合の仕上げは自分でしていない。	50%
29E07	遺構外	土壁	[2.1]	1.2	1.1	[2.7]	普通	良好	褐色	手縫合:正面はナデ整形。縫合の仕上げは自分でしていない。	40%
29E08	遺構外	土壁	[1.9]	1.6	1.5	[3.7]	普通	良好	黄褐色	手縫合:正面はナデ整形。縫合は生存していない。	20%

鉄製品観察表

番号	出土位置	種別	法 長(cm)	法 幅(cm)	法 厚さ(cm)	重 量(g)	粘土	焼成	色調	器形、成・整形等の特徴	庫存状況
10E14	S I 10 棚土	刀子	[8.6]	1.2	0.5	8.4	普通	普通	表面は刃面部が二等辺三角形、裏面は円滑な直角形を呈する。刃面部のほぼ中央から右方向に折れ出る。	60%	
10E18	S I 10 棚土	刀子	[8.6]	1.2	0.5	8.4	普通	普通	表面は刃面部が二等辺三角形、裏面は円滑な直角形を呈する。刃面部のほぼ中央から右方向に折れ出る。	60%	
11E04	S I 17 棚土	不明	[3.8]	0.7	0.1	1.6	普通	普通	非常に薄く、細長い形状をしている。縫合部が曲線している。	20%	
11E04	S I 16 棚土	刀子	[3.6]	1.6	0.3	3.2	普通	刀身の一部が生存、表面は二等辺三角形を呈する。	20%		
18E06	S I 29 棚土	刀子	[7.5]	1.0	0.5	13.1	普通	普通	刀身の刃面部に付いて複数の凹凸がある三角形。某部が縫合部の鋸歯状三角形を呈する。	60%	
29E10	S K 12 棚土	不明	0.6	1.4	1.0	23.7	普通	普通	表面が鋸歯状の状況を呈する。	完存	
29E17	S K 12 棚土	刀子	[11.8]	7.3	1.0	42.0	普通	普通	縫合部の尖った形の字形のものが真ん中で折り曲げられている。表面はカスガイと考えられる。	完存	

石製品観察表

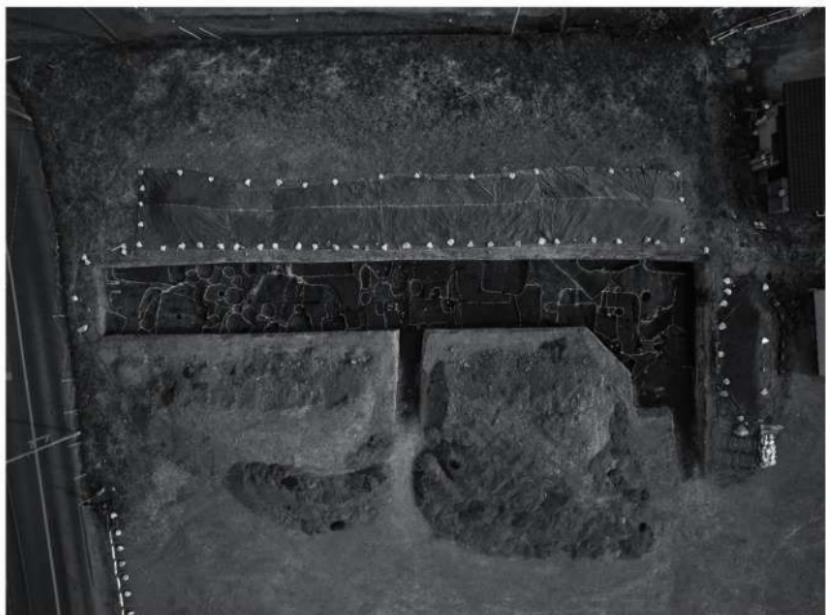
番号	出土位置	種別	法 長(cm)	法 幅(cm)	法 厚さ(cm)	重 量(g)	石質	器形、成・整形等の特徴	庫存状況
7 国 9	S H 1 床面	白玉	1.7	1.3	0.5	1.5	透水	縫合の縫合部を1等辺三角形、裏面は直角形を呈する。刀身部のほぼ中央から右方向に折れ出る。	完存
8 国 14	S I 7 棚土	石核	2.1	2.3	1.6	6.5	透水	不規則の少ない透水性の材料を使用。表面は目立つて小さな剥離部や剥離部の跡跡を呈している。	完存
8 国 15	S I 7 棚土	研磨車	3.9	3.9	1.5	32.2	透水	表面は円筒状の研磨車の跡跡を呈する。裏面は直角形を呈する。	完存
10E19	S I 10 棚土	打製石片	[12.8]	12.2	3.3	[96.3]	砂岩	表面は丸みを帯びた複数の斜面を呈する。刀身部のほぼ中央から左方向に折れ出る。	上部欠損
11国 3	S I 17 棚土	刀子	[14.0]	9.1	3.9	[302.2]	砂岩	表面は左側の斜面と右側の斜面に丸みを帯びた複数の斜面を呈する。刀身部のほぼ中央から右方向に折れ出る。	下部欠損
16E07	S I 28 床面	研磨車	3.9	4.0	1.0	24.6	透水	表面は丸みを帯びた複数の斜面を呈する。表面は直角形を呈する。	透水
20E19	S I 14 研磨	直形半成品	1.8	1.8	1.1	4.3	透水	研磨車の跡跡を呈する。表面は直角形を呈する。	完存
21E11	S I 32 棚土	刻片	4.2	2.2	0.5	5.2	チャート	刀身部に付いて複数の凹凸がある。刀身部の裏面は直角形を呈する。	完存
23E05	S I 19 棚土	刻片	1.9	2.5	0.7	2.3	透水	表面は刀身部の裏面と刀身部の斜面に丸みを帯びた複数の斜面を呈する。刀身部の裏面は直角形を呈する。	完存
27E08	S K 2 棚土	支撑	[9.9]	5.8	[3.6]	[391.8]	透水	表面は複数の凹凸がある。刀身部の裏面は直角形を呈する。	20%
27E09	S K 2 棚土	砾石	[7.4]	[5.9]	[2.6]	[87.4]	透水	表面は複数の凹凸がある。表面は直角形を呈する。	20%
29E07	S K 22 棚土	砾石	[10.7]	3.6	2.8	[179.9]	透水	表面は複数の凹凸がある。表面は直角形を呈する。	上部欠損

発掘調査報告書抄録

ふりがな	わたぬき・だいしんでんいせき
書名	綿貫・台新田遺跡
副書名	分譲住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査
卷次	一
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書
シリーズ番号	第246集
編集者名	高林 真人
編集機関	高崎市教育委員会
所在地	〒370-8501 群馬県高崎市高松町35-1
発行年月日	2009年 7月 31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
わたぬき・だいしんでん 綿貫・台新田	たかさきし わたぬきまち 高崎市 繼貫町 だいしんでん とひら 台新田 飛地		431	36° 18' 05"	139° 04' 15"	2008.12.08 ~ 2009.01.22	200m ²	宅地造成

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
綿貫・台新田	集落跡	古墳時代 奈良時代 平安時代	竪穴住居跡 32軒 土坑 36基 井戸跡 1基 小穴 22個	土師器 須恵器 灰釉・綠釉陶器 石器 石製品 鉄製品 調文土器	5世紀後半から11世紀代の 集落跡を検出した。



調査区全景 (SW 真上から)



調査区北部 全景 (SW から)



調査区中央北 全景 (SW から)



調査区中央南 全景 (SW から)



調査区南部 全景 (SW から)

写真図版 2



写真図版 3



写真図版 4

SI-32



21図1



21図2

SI-33



21図13

SK-3



28図2

SK-14



28図12

SK-16



28図21
28図21

SK-19-20



25図28

SK-9



28図8

SK-15



28図16

SK-21



28図3

SE-1



29図11

P-4



29図17

SK-22



29図4



29図5



29図13

造模外



29図22

29図18

土製品

SK-2



27図7

造模外



29図23



29図24



29図25

鉄製品

SK-16



28図17

SI-10



10図18

SI-29



18

SI-17



11図4

石製品

SI-22



29図7



8図15



16図7



7図9



20図19

高崎市文化財調査報告書第246集

綿貫・台新田遺跡

一分譲住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査一

2009年7月31日 印刷

2009年7月31日 発行

編 集 高崎市教育委員会

発 行 高崎市教育委員会

印 刷 上海印刷工業株式会社
